

昭和62年度 (昭和62年3月1日から 昭和63年2月29日まで) 事業報告

I. 会 議

昭和62年度に行った事業のうち特記事項をあげると次の通りである。

- (1) 臨時協会事業検討委員会の答申(協会事業範囲, 事業運営の基本構想, 事務局のあり方)を受け, 各委員会, 部会等で実行計画について検討し, 3月末を目途にまとめることとした。
- (2) (1)に基づき, 講演概要集を昭和63年度より独立した講演論文誌として春秋各3冊計6冊を刊行し, 有償頒布することを決定した。誌名は「材料とプロセス」(日本鉄鋼協会講演論文集)とする。
- (3) 欧文誌「Trans. ISIJ」を昭和64年1月号より「ISIJ International」に改名を予定し, 国際誌として一層の飛躍をはかることになった。
- (4) (1)に基づき, 共同研究会の部会・分科会の開催頻度, 開催要領等を見直し, 効率化に努めた。
- (5) 第5回日本・チェコスロバキア合同シンポジウムを昭和62年3月18, 19日に東京で, 第7回日本・ドイツセミナーを5月5, 6日にデュッセルドルフで, 第4回日本・中国鉄鋼学会を11月26, 27日に神戸で各々開催した。
- (6) 第6回ISO TC17/EC会議を昭和62年6月4, 5日マンチェスターで開催した。
- (7) (1)に基づき, 支部活動の活性化をはかるため, 各支部規則の見直しを行った。
- (8) (1)に基づき, 昭和62年12月号を以て「鉄鋼技術総覧」を廃刊した。
- (9) 鉄鋼関係の技術者, 研究者の他部門への異動に伴い, 本会会員が455名減少した。

1. 総 会

第72回通常総会, 昭和62年4月2日, 東京大学法文二号館31番教室において開催。

議 事

- (1) 昭和61年度事業報告, 収支決算ならびに財産目録の件一承認可決
- (2) 昭和62年度事業計画ならびに収支予算の件一承認可決
- (3) 理事, 監事ならびに評議員選挙の件一別記の通り
当選就任

臨時総会, 昭和62年10月9日, 熊本工業大学F館6階2601教室において開催

議 事

- (1) 春秋講演大会の講演概要集を有償頒布に改める件一承認可決

2. 評 議 員 会

昭和62年度第1回評議員会, 昭和62年8月10日書面審議により開催。

議 事

- (1) 春秋講演大会の講演概要集を有償頒布に改める件一承認可決
- (2) 臨時総会開催の件一承認可決
- (3) 理事補欠選挙の件一別記の通り
当選就任
- (4) 表彰規程改訂の件一承認可決

昭和62年度第2回評議員会, 昭和63年2月19日, 経団連会館9階901号室において開催。

議 事

- (1) 昭和62年度事業報告, 収支決算ならびに財産目録の件
- (2) 昭和63年度事業計画ならびに収支予算の件
- (3) 次期理事, 監事ならびに評議員候補者推薦の件
- (4) 名誉会員推挙の件
- (5) 表彰規程改訂の件
上記承認可決

3. 理 事 会

昭和62年4月3日, 4月23日, 6月17日, 7月20日, 9月17日, 10月20日, 12月16日, 63年2月19日の8回開催し, 一般会務につき協議決定した。

4. 企画委員会

昭和62年5月11日, 6月15日, 7月13日, 9月14日, 12月14日, 63年1月28日, 2月15日の7回開催し, 事業運営上の諸計画, 予算, 国際交流, 他団体からの依

頼による表彰奨励の推薦などについて協議した。

4.1 会計分科会

昭和62年3月20日, 6月15日, 9月14日, 11月16日, 12月14日, 63年1月28日, 2月15日の7回開催し予算, 決算, 研究補助金の処理など経理に関する事項を協議した。

4.2 表彰奨励推薦分科会

昭和62年4月24日, 7月31日, 11月27日の3回開催し, 他団体からの依頼による表彰奨励候補の選考を行った。尚, 本年度受賞したものは下記の通りである。

第19回 市村賞

(株)神戸製鋼所 超々臨界圧発電用12Cr鋼ロータの開発

昭和62年度全国発明表彰

新日本製鉄(株) 炭素耐火物及びその製法

第33回 大河内賞

新日本製鉄(株) 大規模熱延ミルにおける高精度・即応生産技術の開発(熱延ミルにおける多品種・小ロット注文のスケジューリングフリー圧延技術の開発)

日本鋼管(株) 熱処理型高強度レール(NHHレール, AHHレール)製造プロセスの開発

第22回 日本塑性加工学会賞

新日本製鉄(株) 異形断面鋼板を使用したフレームとFMS自動溶接ラインの開発

第22回 機械振興協会賞

(株)神戸製鋼所 熱間静水圧押し技術及び押しプレス設備の開発

5. 編集委員会

5.1 編集運営委員会

昭和62年4月10日, 28日, 7月10日, 11月6日, 1月14日, 2月12日の6回開催し, 各分科会の方針決定, 依頼論文賞の選考を行なった。また春秋講演大会講演概要集を, 「鉄と鋼」から独立した「材料とプロセス」(日本鉄鋼協会講演論文集)に改め春秋各3冊計6冊を刊行し, 昭和63年から有償頒布することを理事会に提案し, 昭和62年10月9日開催の臨時総会において承認決定された。

「材料とプロセス」の内容は次の通りである。

第一分冊: 製鉄, 製鉄・製鋼共通, 製鋼, 関連討論会

第二分冊: 萌芽・境界領域, 加工・システム・利用技術, 分析, 表面処理, 関連討論会

第三分冊: 材料の組織・性質, 関連討論会

また, 欧文会誌「Trans. ISIJ」を国際誌として一段の発展を期し, 昭和64年1月号より「ISIJ International」と誌名を変更することを10月10日開催の理事会に提案し承認された。

5.2 和文会誌分科会

昭和62年3月から(8月を除く)63年2月まで毎月1回, 計11回開催し, 会誌「鉄と鋼」の編集を行なっ

た。特に62年度からは臨時協会事業検討委員会の答申に基づき, 事務経費の節減のため議事録, 資料作成のワープロ化を図るとともに, 昭和63年3月1日以降投稿の論文, 技術報告から50部別刷の購入を義務とすること, および料金の改訂を行なった。

○小委員会 毎月分科会開催時の前に開催し, 解説, 技術資料, 随想等の企画, 執筆者の選定等を行なった。

5.3 欧文会誌分科会

昭和62年3月から(8月を除く)63年2月まで毎月1回, 計11回開催し, 欧文会誌「Trans. ISIJ」の編集を行なった。特に64年1月より誌名を「ISIJ International」と改名すること, 又海外からの投稿記事増加を図るためのAdvisory Committee(仮称)の設置等について検討した。

5.4 講演大会分科会

昭和62年3月19日, 5月29日, 7月10日, 13日, 17日, 9月18日, 10月23日, 63年1月14日, 18日, 22日に開催し, 講演大会, 討論会の企画, 実施, 講演原稿の査読, 講演プログラムの編成を行なった。

○鋼構造物小委員会 62年3月6日, 6月16日, 7月14日, 9月22日, 11月17日, 63年1月14日に開催し, 講演大会における講演の募集(指定テーマ), 企画, 運営を行なった。

5.5 MP専門委員会

昭和62年4月27日, 6月19日, 7月13日, 9月3日, 11月19日, 63年1月18日に開催し, 春秋講演大会における萌芽・境界領域部門の講演の企画, 実施を行なった。また, 臨時協会事業検討委員会の答申に基づき, 今後の活動方針について検討し理事会に提出した。

6. 研究委員会

昭和62年度研究委員会は, 昭和62年3月10日, 4月22日, 7月7日, 9月17日, 10月27日, 12月3日および昭和63年1月26日の7回開催した。

6.1 石原・浅田研究助成金交付研究の募集と審査

応募総数16件の内から製錬関係2件, 材料・加工関係3件およびその他2件合計7件の助成金交付を決定した。

6.2 特定基礎研究会の昭和63年度新規テーマ審議

昭和63年度新規発足テーマについてアンケート調査した課題について審議した結果, 次の2部会を新規に発足させることとした。

「応力下における腐食評価」部会

「構造材料の信頼性評価技術」部会

6.3 臨時協会事業検討委員会答申への対応について

臨時協会事業検討委員会の答申に沿って, 特定基礎研究会およびその他研究会の対応方針を審議し, 特定基礎研究会内規の改訂および研究会規程設定要領の策定を行った。

6.4 研究テーマの公募・公開

64件の研究テーマ提案があり研究テーマ小委員会において整理・選定を行ない, 次のように措置した。

- 1) 全研究テーマの概要と整理結果を「鉄と鋼」9号(7月号)に公開した。
- 2) 特定基礎研究会単独依頼研究
 - (1) 「2相固体電解質を用いた溶銑用シリコンセンサの開発」 岩瀬 正則君(京大)
 - (2) 「スラッグの塩基度の尺度としての金属イオンの酸化還元平衡」 佐野 信雄君(東大)
 - (3) 「X線異常散乱による微小領域(10 μm 以下)あるいは薄膜領域(1 μm 以下)に対する新構造解析法の開発」 早稲田嘉夫君(東北大)
 - (4) 「加速域までの長時間クリーブ曲線と寿命の推定」 及川 洪君(東北大)
 - (5) 「薄板の温間成形加工に関する研究」 加藤 健三君(阪大)

6.5 センサ技術調査小委員会

シーズ・ニーズ調査グループに分かれた調査活動を展開し、さらにその両グループの調査結果の対応作業も終了した。これらの活動の概要報告を「鉄と鋼」に投稿した。また、「鉄鋼用センサの現状と将来」と題する活動成果報告書を刊行した。

6.6 海洋材料小委員会

昭和63年1月12日、第1回の小委員会を開催し、活動について検討した。

7. 国際交流委員会

昭和62年4月22日、7月7日、12月9日の計3回の委員会を開催した。主な討議事項は次の通り。

- 1) 国際会議実行委員会の設置
 - (1) International Conference on Zinc and Zinc Alloy Coated Steel Sheet —GALVATECH '89— (亜鉛および亜鉛合金めっき表面処理鋼板に関する国際会議)

昭和64年9月開催—東京経団連会館
実行委員長 久松敬弘君 東京大学名誉教授, 日新製鋼(株)副社長, 委員15名, 顧問1名
 - (2) International Conference on Evaluation of Materials Performance in Severe Environments —Toward the Development of Materials for Marine and Other Uses —EVALMAT89 (材料評価に関する国際会議—土木・海洋環境における材料挙動の評価と材料開発—)

昭和64年11月開催—神戸国際会議場
実行委員長 高村仁一君 京都大学名誉教授, 委員19名, 顧問2名, Scientific Advisory Board 16名
- 2) 第6回鉄鋼科学技術国際会議(昭和65年・日本)の会議テーマ検討
- 3) 国際会議の開催計画の検討(中長期計画)
- 4) 国外関係学協会との学術・技術交流の推進

8. 図書出版委員会

62年度より編集委員会出版分科会から改編され、62年3月27日第1回委員会を開催し、6月29日、9月25日、11月12日、63年2月26日に開催し、図書出版規程、内規の決定、図書の出版計画、図書の在庫管理等の業

務を行なった。

9. 特別資金運営委員会

昭和63年1月19日に開催し、渡辺義介記念資金・石原米太郎研究資金・西山弥太郎記念資金・湯川正夫記念資金・浅田長平記念資金・三島徳七記念資金・林達夫記念資金・白石元治郎記念資金および日向方育学術振興資金の昭和62年度事業および決算ならびに昭和63年度事業および予算の件を審議した。

10. 一般表彰選考委員会

昭和62年7月31日、昭和63年1月28日の2回開催し、本会表彰の授賞者の選考を行った。

11. 次期役員名誉会員候補選考委員会

昭和63年1月19日に開催し、次期理事、監事、評議員及び名誉会員の選考を行った。

12. 委員長会議

昭和62年7月13日、9月28日の2回開催し、臨時協会事業検討委員会答申の検討、予算編成方針等重要テーマにつき協議した。

II. 会 員

本年度において次のとおり会員の異動があった。

石原重利君、井上道雄君、盛利貞君、M. C. Flemings君を昭和62年4月2日名誉会員に推挙した。

名誉会員 小島新一君 昭和62年3月30日逝去
 " 的場幸雄君 昭和62年9月28日逝去
 " 稲山嘉寛君 昭和62年10月9日逝去
 " 澤村 宏君 昭和62年12月24日逝去
 " 中野 宏君 昭和63年1月18日逝去
 " 角野尚徳君 昭和63年2月29日逝去

	名誉	賛助	維持	外国	正	学生	計
昭和62年2月28日現在	61	10	210	612	9,579	195	10,667
入 会	1		4	38	469	84	596
退 会			9	69	934	18	1,030
死 亡	6				23		29
復 会					8		8
転 格	+ 3			+ 2	+86	-91	0
昭和63年2月29日現在	59	10	205	583	9,185	170	10,212

III. 役員および常置委員

1. 理 事

昭和62年4月2日開催の第72回通常総会において任期満了理事の改選を行い、次の者当選就任した。(任期

2年)

歌橋 千之君 木下 亨君 木村 宏君
 佐野 信雄君 鈴木 朝夫君 高橋 久君
 高橋 忠義君 竹内 久彌君 田中 良平君
 豊島 陽三君 牧 正志君 森田善一郎君
 矢ヶ崎 汎君 山本 全作君 吉松 史朗君

尚、留任の理事は下記の通りである。

内仲 康夫君 小野 陽一君 川口 三郎君
 河野 拓夫君 榎藤 永君 雀部 実君
 竹下 勅三君 永井 親久君 萬谷 志郎君
 久松 敬弘君 福岡 利和君 松原 博義君
 三井 太信君 森 一美君 森 省二君

昭和62年4月2日開催の臨時理事会において、互選により次のとおり当選就任した。

会 長 久松 敬弘君
 副 会 長 森 一美君 山本 全作君
 副会長・専務理事 木下 亨君
 常務理事 三井 太信君
 尚、理事の職務分掌は次表の通りとした。

○委員長 △主査

		留 任	新 任
会 長		久松 敬弘君 (東大)	
副 会 長		森 一美君 (名大)	山本 全作君 (新日鉄)
副 会 長・ 専 務 理 事			木下 亨君 (協会)
常 務 理 事		三井 太信君 (協会)	
企 画 委 員 会	企 画	河野 拓夫君 (新日鉄) (兼)榎藤 永君 (中山) 萬谷 志郎君 (東北大)	○ 竹内 久彌君 (住金) 歌橋 千之君 (川鉄)
	庶 務	△ 松原 博義君 (鋼管) 福岡 利和君 (大同) 川口 三郎君 (日鋼) 竹下 勅三君 (鉄連)	矢ヶ崎 汎君 (日金工)
	会 計	永井 親久君 (神鋼) 森 省二君 (日新) (兼)雀部 実君 (千工大)	△ 豊島 陽三君 (トピー)
編 集		榎藤 永君 (中山) 雀部 実君 (千工大) 小野 陽一君 (九大)	○ 鈴木 朝夫君 (東工大) △ 佐野 信雄君 (東大) 牧 正志君 (京大)

研 究	内仲 康夫君 (通産) (兼)森 一美君 (名大)	○ 田中 良平君 (横国大) (兼)歌橋 千之君 (川鉄) 高橋 久君 (鋼鉄) 高橋 忠義君 (北大) 木村 宏君 (東北大) 森田善一郎君 (阪大) 吉松 史朗君 (金材研)
-----	------------------------------------	--

昭和62年7月10日 歌橋 千之君 理事辞任
 昭和62年8月10日 三枝 誠君 理事就任(企画・研究担当)
 昭和63年2月19日 高橋 久君 三枝 誠君 理事辞任

2. 監 事

昭和62年4月2日開催の第72回通常総会において任期満了監事の改選を行い、草川隆次君当選就任した。尚、留任は高井 清君

3. 評 議 員

昭和62年4月2日開催の第72回通常総会において任期満了の評議員の選挙を行い、次の者当選就任した。(任期2年)

秋田 正彌君	浅岡 善一君	浅野 鋼一君
新井 宏一君	荒田 俊雄君	安生 浩君
安藤 卓雄君	井上 敏郎君	井上 浩行君
伊藤 孝君	伊藤 正君	伊藤 慶典君
池島 俊雄君	池田 正君	一瀬 英爾君
今井勇之進君	岩村 英郎君	上杉 年一君
上野 利夫君	江口 勇君	小田 助男君
小野修二郎君	小野 勝敏君	小原 信二君
大岡 耕之君	大須賀立美君	大竹 正君
大谷 正康君	大中都四郎君	大橋 延夫君
大森 康男君	大日方達一君	岡 雄彦君
岡 宗雄君	岡田 秀彌君	沖信 春男君
荻野 和己君	加藤 榮一君	加藤 健三君
加藤 哲男君	金山 千治君	川名 昌志君
河西 健一君	河田 和美君	北川 英夫君
久能 一郎君	久米 是志君	栗田 満信君
黒津 亮二君	小島 浩君	五弓 勇雄君
後藤 和弘君	近藤 明君	佐久間健人君
佐藤 忠雄君	佐野 幸吉君	雑賀 喜規君
澤村 宏君	志岐 守哉君	設楽 齊君
清水 峯男君	白松 爾郎君	新宮 康男君
杉之原幸夫君	杉山 信明君	鈴木 昭男君
鈴木 英夫君	鈴木 禎一君	住友 元夫君
角谷三四郎君	角野 尚徳君	宗宮 重行君

田阪 興君	田畑新太郎君	高梨 省吾君	細木 繁郎君	堀川 一男君	堀田 正之君
楯 昌久君	館 充君	谷 幸男君	前田 正恭君	増子 昇君	松下 幸雄君
堤 信久君	土手 彬君	濤崎 忍君	的場 幸雄君	三島 良績君	三野 重和君
徳永 洋一君	堂山 昌男君	豊田 茂君	三好 俊吉君	水野 実君	宮川 大海君
奈古屋嘉茂君	中川 龍一君	梨和 甫君	村山 利雄君	森 五郎君	森 久君
成田 貴一君	新居 和嘉君	西澤 一彦君	盛 利貞君	八木 直彦君	山城 彬成君
西八條 實君	羽鳥 幸男君	長谷川正義君	山田 浩蔵君	山田 龍男君	山地 健吉君
蜂谷 茂雄君	蜂谷 整生君	林 主税君	山村 隆将君	依田 連平君	和田 亀吉君
原田 利夫君	春山 志郎君	不破 祐君	渡辺 十郎君	渡辺 秀夫君	
深川彌二郎君	福田 健二君	藤原 達雄君	評議員 的場 幸雄君	昭和62年 9月28日逝去	
古川 敬君	前河 宏昌君	松野 浩二君	" 澤村 宏君	昭和62年10月 9日逝去	
松原 嘉市君	丸橋 茂昭君	三田 勝茂君	" 中野 宏君	昭和63年 1月18日逝去	
宮川 松男君	森 克己君	森 勉君	" 渡辺 十郎君	昭和63年 1月28日逝去	
八木 靖浩君	山本 健一君	行俊 照夫君	" 角野 尚徳君	昭和63年 2月29日逝去	
横井 信君	横河 正三君	吉崎 鴻造君			
吉田 良孝君	米倉 功君				

尚、留任の評議員は下記の通りである。

阿部 芳平君	青木 宏一君	荒川 武二君
朝位 義照君	足立原明文君	荒木 修君
荒木 透君	井上 正文君	井上 道雄君
井村 徹君	石黒 嘉人君	石原 重利君
石渡 鷹雄君	伊木 正二君	伊木 常世君
伊佐 重輝君	飯田庸太郎君	入 一二君
岩井 彦哉君	岩岡 昭二君	上田 俊二君
上田 俣完君	植田 守昭君	牛島 清人君
江尻宏一郎君	小野寺真作君	及川 洪君
大澤 秀雄君	大森 正男君	大和田国男君
太田 豊彦君	近江 宗一君	岡林 邦夫君
甲斐 幹君	加藤 健君	加藤 亨君
鍵本 潔君	梶原 太吉君	片岡 修君
神居 詮正君	川合 保治君	川上 哲郎君
木原 諄二君	岸田 壽夫君	北西 碩君
北村 卓夫君	狐崎 寿夫君	久保寺治朗君
久米 豊君	國武 隼人君	小池 輝一君
小島 勢一君	小林佐三郎君	甲谷 知勝君
駒井謙治郎君	佐伯 修君	佐伯 達夫君
佐々木健二君	佐波 正一君	坂尾 弘君
阪本 英一君	作井 誠太君	芝崎 邦夫君
島田 仁君	須藤 一君	鈴木 驍一君
芹沢 正雄君	田口 和正君	田路 和稔君
田部文一郎君	田村 今男君	田山 昭君
高野 廣君	高村 仁一君	武内 俊夫君
館野 万吉君	玉置 正和君	千原 学君
辻井 和正君	戸田 健三君	徳田 昌則君
飛山 一男君	豊田章一郎君	中川 一君
中嶋 淳夫君	中野 平君	中野 宏君
中村 正久君	永田 泰郎君	長嶋 晋一君
西沢 泰二君	能川 昭二君	橋口 隆吉君
長谷川謙浩君	花村 信平君	林 俊太君
速水 優君	春名 和雄君	弘田 昇君
藤田 英一君	藤村 侯夫君	藤本 一郎君
舟知 明君	細井 祐三君	堀江 重榮君

4. 支部長

本年度において支部長の交替があった。

支部名	退 任	新 任	交替年月日
東 海	江崎 幹君	新美 格君	62. 3. 1
関 西	佐伯 修君	堀 茂徳君	62. 3. 18
中国四国	黒津 亮二君	蜂谷 整生君	62. 7. 1
九 州	森 久君	磯 平一郎君	62. 7. 1
北海道	小野修二朗君	郷豊 雅之君	62. 7. 7

5. 編集委員長

昭和62年 4月 3日 編集委員長交代
委嘱 鈴木 朝夫君 解嘱 坂尾 弘君

6. 企画委員長

昭和62年 4月 3日 企画委員長交代
委嘱 竹内 久彌君 解嘱 栗田 満信君

7. 研究委員長

昭和62年 4月 3日 研究委員長交代
委嘱 田中 良平君 解嘱 加藤 健三君

8. 常務委員

昭和62年 4月 3日 委嘱
新居 和嘉君 (欧文会誌分科会主査)
昭和62年 4月 3日 解嘱
山本 全作君
昭和62年 6月 17日 解嘱
中川吉左衛門君
昭和62年 9月 17日 委嘱
大橋 延夫君 (国際交流委員長)
昭和62年 9月 17日 解嘱
堀川 一男君
昭和63年 2月 19日 委嘱
細木 繁郎君 (共同研究会幹事長)
昭和63年 2月 19日 解嘱

安藤 卓雄君

9. 編集委員

昭和62年3月11日委嘱

阿部 光延君

昭和62年4月15日解嘱

田村 今男君 菊池 実君 金尾 正雄君
星野 和夫君

昭和62年4月15日委嘱

松尾 孝君 一瀬 英爾君 武田 徹君

鈴木脩二郎君 河合 伸泰君 梶永 剛啓君

鈴木 洋夫君 大橋 徹郎君 西村 尚君

大中 逸雄君

昭和62年5月22日解嘱

野崎 努君 瀬野 英夫君

昭和62年5月22日委嘱

藤井 徹也君 岩田 英夫君

昭和62年6月4日委嘱

高島 弘教君

昭和62年6月12日解嘱

森 隆資君

昭和62年6月12日委嘱

尾上 俊雄君

昭和62年6月24日委嘱

岡本 俊彦君 金子 忠男君 坂本 傑君

昭和62年6月29日委嘱

久保 紘君

昭和62年6月30日解嘱

永井 春哉君

昭和62年6月30日委嘱

栗原 正好君

昭和62年7月2日解嘱

鈴木脩二郎君

昭和62年7月2日委嘱

村岡 義章君

昭和62年8月11日委嘱

青木 博文君

昭和62年8月25日解嘱

市田 敏郎君 梅田 高照君 大坪 孝至君

尾関 昭矢君 川崎 守夫君 岸 輝雄君

中村 正和君 本間 亮介君 溝口 庄三君

宮崎 亨君 望月 俊男君 大塚 和弘君

国井 信夫君 春山 志郎君 青野 照彦君

丸川 雄浄君 小指 軍夫君

昭和62年8月25日委嘱

河部 義邦君 浅井 滋生君 阿部 英夫君

綾田 研三君 大和 康二君 大中 逸雄君

大河内春乃君 大宝 雄蔵君 河井 良彦君

城田 良康君 木内 学君 栗林 一彦君

坂本 登君 辻川 茂男君 肥田 行博君

石黒 徹君 片山 裕之君 遠藤 孝雄君

三吉 康彦君 田村 至君 門馬 義雄君

八木順一郎君 田中 紘一君 谷川庄一郎君

金森 健君 北川 融君 香山 晃君

小林 勝君 田中 甚吉君 難波 明彦君

加藤 雅治君 丸山 公一君 坂輪 光弘君

松尾 宗次君 松宮 徹君 吉谷 豊君

細谷 陽三君 宮原 忍君 椎名堅太郎君

姉崎 正治君 国岡 計夫君

昭和62年8月26日解嘱

寺崎富久長君

昭和62年8月26日委嘱

大谷 泰夫君 志賀 千晃君

昭和62年8月31日委嘱

佐藤 廣士君 高塚 公郎君

昭和62年9月1日委嘱

渡辺 敏君

昭和62年9月4日委嘱

金子 智君

昭和62年9月7日委嘱

長谷川守弘君

昭和62年9月11日委嘱

吉田 勝彦君

昭和62年9月17日委嘱

三原 豊君

昭和62年10月30日委嘱

川上 正博君

昭和62年12月3日委嘱

梶永 剛啓君 村岡 義章君

昭和62年12月9日委嘱

村上 雅人君 長井 寿君

10. 企画委員

昭和62年6月17日委嘱

足立 芳寛君

11. 研究委員

昭和62年4月1日解嘱

徳田 昌則君 吉松 史朗君 伊藤 庸君

加藤 哲男君 川上 公正君 川並 高雄君

昭和62年4月1日委嘱

辻川 茂男君 入江 敏夫君 福井 彰一君

昭和62年6月15日解嘱

青山晋一郎君

昭和62年6月15日委嘱

児玉 文男君

昭和63年1月26日解嘱

入江 敏夫君 小久保一郎君 福井 彰一君

昭和63年1月26日委嘱

江見 俊彦君 尾上 俊雄君 小野 清雄君

12. 国際交流委員

昭和62年4月13日解嘱

白松 爾郎君 坂尾 弘君 加藤 健三君

金尾 正雄君
 昭和62年4月13日委嘱
 山本 全作君 鈴木 朝夫君 田中 良平君
 新居 和嘉君
 昭和62年7月10日解嘱
 富浦 梓君
 昭和62年7月10日委嘱
 児玉 文男君
 昭和62年10月1日解嘱
 堀川 一男君(委員長) 邦武 立郎君
 森 隆資君
 昭和62年10月1日委嘱
 大橋 延夫君(国際交流委員会委員長)
 尾上 俊雄君 京極 哲朗君 以上新任
 大須賀立美君 大西 敬三君 菊池 実君
 佐野 信雄君 雀部 実君 澤村 栄男君
 鈴木 正敏君 新居 和嘉君 萬谷 志郎君
 牧 正志君 以上再任

13. 図書出版委員

昭和62年3月6日委嘱
 安藤 卓雄君 大森 康男君 加藤 健三君
 小久保一郎君 高橋 政司君 中西 恭二君
 山口 重裕君
 昭和62年6月2日委嘱
 国岡 計夫君
 昭和62年8月31日委嘱
 松下 富春君 宮川 松男君
 昭和62年9月3日解嘱
 小久保一郎君

IV. 一般会計による事業

1. 刊行事業

1.1 鉄と鋼

昭和62年度は第73年第3号(3月号)～第74年第2号(2月号)まで普通号11冊, 特集号「製鉄技術の拡大と高度化」15号(11月号)1冊, ならびに講演概要集4, 5号, 12, 13号の4冊, 計16冊を発行した。掲載報文は, 論文155件, 技術報告45件, 技術資料・解説等66件を掲載した。

1.2 Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan

昭和62年度の本誌への投稿数は内外より178件あった他, 春秋の講演大会発表講演より285件の英文講演概要およびNew Technology 48件を掲載した。62年度はVol.27, No.3～Vol.28, No.2まで12冊発行した。その内, No.6「Special Issue on Physical Metallurgy of Hot Working」, No.9「Special Issue on Superplasticity」, No.12「Special Issue on Rapid Solidification Processes and Products I: Processes」, Vol.28, No.1

「同II: Products」を特集号として発行した。

なお, 講演の英文概要掲載は来春の講演大会より廃止することを決定した。

1.3 図書の刊行

昭和62年度は「第2版わが国における最近のホットストリップ製造技術」を始め, 会員名簿('87, '88年版), 「鋼材の外観きず用語集(鋼片, 形鋼および平鋼, 棒鋼および線材, 厚鋼板, 熱延鋼板, 冷延鋼板, 亜鉛鉄板および着色亜鉛鉄板, ぶりき)」, 「The Fifth Japan-Czech-slovakia Joint Symposium」, 「The Fourth Japan-China Symposium on Science and Technology of Iron on Steel」, 「鉄鋼の海洋環境共通試験とその解析」, 「鉄鋼の海洋環境破面写真集Vol.2」, 「ひずみや範囲分割法によるSUS304鋼の切欠主部の高温低サイクル疲労き裂発生寿命評価の検討」, 「金属系新素材の試験評価法の現状と展望」, 「低炭素鋼板研究委員会報告」を発行した。

また, 鉄鋼基礎共同研究会高炉内反応部会(委員長大森康男君)において英文で編集したBlast Furnace Phenomena and Modelingを本会としては初めて英国の出版社より出版した。

2. 講演大会・研修事業

2.1 講演大会

2.1.1 第113回講演大会

- 1) 期 日 昭和62年4月1日～3日
- 2) 会 場 東京大学工学部, 法学部
- 3) 講演数 一般講演733件, 討論会講演47件
- 4) 討論会テーマ
 - (1) 高炉炉下部内現象
 - (2) 転炉における精錬機能の拡大
 - (3) クラッド材の製造方法
 - (4) 二相ステンレス鋼の特徴と問題点
 - (5) 缶用材料
 - (6) 金属材料の極微量分析
- 5) 特別講演会

(1) 渡辺義介賞受賞記念講演

「わが国鉄鋼業のめざす技術課題」

川崎製鉄(株)取締役社長 八木 靖浩君

(2) 西山賞受賞記念講演

「鋼の加工熱処理における基礎過程」

京都大学工学部元教授 田村 今男君

2.1.2 第114回講演大会

- 1) 期 日 昭和62年10月9日～11日
- 2) 会 場 熊本工業大学
- 3) 講演数 一般講演801件, 討論会講演29件
- 4) 討論会テーマ
 - (1) 高炉内における装入物の挙動
 - (2) タンディッシュメタラジール
 - (3) 圧延プロセスにおける保全技術
 - (4) 粒界偏析挙動と鋼の性質
- 5) 特別講演会

浅田賞受賞記念講演

(1) 工業計測とリモートセンシング

東京大学名誉教授, 成蹊大学工学部教授
豊田 弘道君

(2) 日本の自動車工業と鉄鋼材料の進歩

(株)本田技術研究所技術顧問 大沢 恂君

6) 見学会

(1) 工場見学会

井関農機(株)熊本工場, 阿蘇山頂

(2) 婦人見学会

熊本の歴史と文学めぐり

2.2 西山記念技術講座

(1) 第116回・117回「最近の製鉄技術の進歩」

2月9日, 10日(東京), 2月19日, 20日(大阪)

(2) 第118回・119回「ステンレス鋼製造技術の最近の進歩」

5月7日, 8日(東京), 5月21日, 22日(大阪)

(3) 第120回・121回「需要家からの製鋼材料への要望」

9月8日, 9日(東京), 9月29日, 30日(大阪)

(4) 第122回・123回「融体精錬反応の基礎と応用」

63年2月9日, 10日(東京), 2月16日, 17日
(大阪)

2.3 白石記念講座

(1) 第12回・13回「金属系新素材の開発と応用」

6月11日, 12日(東京), 6月25日, 26日(大阪)

(2) 第14回「表面改質による材料の高性能化技術」

11月17日(東京)

2.4 鉄鋼工学セミナー

第13回鉄鋼工学セミナーは, 製鉄(受講生24名), 製鋼(同42名), 材料(同75名)の3コースに別れ, 宮城県蔵王町で昭和62年7月26日~8月1日開催された。講師41人, 受講生は22社141人であった。

2.5 他学協会との共催, 協賛, 後援による事業
(3月)

第2回環境工学連合講演会(共催)

日本学術会議環境工学研究連絡委員会
講演会半導体デバイス材料と電子顕微鏡一断面観察を
中心として(協賛) 日本電子顕微鏡学会

原子力構造機器の材料, 設計, 施行, 検査講習会(後
援) 日本溶接協会

第30回シンポジウム「最近のアルミニウム合金の粉末
冶金技術」(協賛) 軽金属学会

講習会「エキスパートシステム: 方法論と応用」(協賛)
計測自動制御学会

'87新テクノロジーシンポジウムPART5機械設計のた
めのコンピュータシミュレーション(協賛)

日本能率協会
'87新テクノロジーシンポジウムPART6「コージェネ
レーション・燃料電池・蓄熱と増熱技術と実例」

(後援) 日本能率協会

(4月)

第4回「センシングフォーラム」(協賛)

計測自動制御学会
Technology Japan 87「新素材と加工技術展」(協賛)

日本工業新聞社
第32回材料強度と破壊国内総合シンポジウム(共催)

日本材料強度学会
第21回空気調和・冷凍連合講演会(協賛)

空気調和・衛生工学会
講習会「数値解析手法による制御系設計」(協賛)

計測自動制御学会
'87ハイテックスジャパン(協賛) 日本工業新聞社

(5月)

第18回塑性加工春季講演会(協賛) 日本塑性加工学会
第6回ケムローン世界会議「産業革新に應える先端材

料—エネルギー, 運輸, 通信」(後援)

日本学術会議
'87新素材展(協賛) 日本経済新聞社

第108回塑性加工シンポジウム「塑性加工による材料の
特性開発」(協賛) 日本塑性加工学会

パネルセッション「自動車用新材料の展望と問題点」
(協賛) 自動車技術会

「工業の進路を探る」時事講演会—新素材・新技術・
経済摩擦—(協賛) 国民工業振興会

(6月)

循環流動層に関するシンポジウム(協賛)

化学工学協会
第28回塑性加工研修会「プラスチックおよび複合材の
材料設計・加工プロセス」(協賛)

日本塑性加工学会
昭和62年度溶接技術基礎講座(協賛) 溶接学会

第22回 Chemical Abstracts 利用法講習会(共催)

化学情報協会
金属学会セミナー「薄膜材料の基礎と応用まで」

(協賛) 日本金属学会
セミナー「最新のサーボ技術」(協賛)

日本自動制御協会
第24回理工学における同位元素研究発表会(協賛)

理工学における同位元素研究発表会運営委員会
(7月)

第11回構造工学における数値解析法シンポジウム

(協賛) 日本鋼構造協会
第7回防錆防食技術発表大会(協賛)

日本防錆技術協会
第53回特別講演会 先端技術と機械工業(協賛)

日本機械学会
第24回X線材料強度に関するシンポジウム(協賛)

日本材料学会
第8回日本熱物性シンポジウム(協賛)

日本熱物性研究会
第19回結晶成長国内会議(NCCG-19)(協賛)

日本結晶成長学会
シンポジウム「ファインセラミックスの新しい加工技
術とその応用」(協賛) 精密工学会

- 第4回「セラミックス特性の測定技術ノウハウ」講習会(協賛) 窯業協会
- 第3回日本バイオマテリアル学会講座「バイオマテリアル製品開発のための組織培養法—基礎と実践—」(協賛) 日本バイオマテリアル学会
- 第6回未来工学に関するパネル討論会「最先端工学技術を用いた医療診断」(協賛) 日本工学会
- 第2回産業における画像センシング技術シンポジウム(協賛) 日本非破壊検査協会
- 「構造強度から見た複合材料の自動車への適用と考え方」シンポジウム(協賛) 自動車技術会
- S I C E 夏期セミナー'87(協賛) 計測自動制御学会
- シンポジウム「金属の凝固現象および casting 欠陥」(協賛) 日本鋳物協会
- (8月)
- 第27回真空技術夏季大学(協賛) 日本真空協会
- 第23回夏期セミナー(協賛) 日本分光学会
- (9月)
- '87産業用ロボット国際産業協力シンポジウム(S I C I R—'87)(協賛) 日本産業用ロボット工業会
- 第31回材料研究連合講演会(共催) 日本学術会議材料研究連絡委員会
- 先進金属系機械材料と評価に関するフォーラム(協賛) 機械技術協会
- '87新テクノロジーシンポジウムPart 2「コージェネレーション・スーパーヒートポンプシステム」(協賛) 日本能率協会
- '87新テクノロジーシンポジウムPart 1「パソコンによる機械工学問題解析のシステム化」(協賛) 日本能率協会
- 国際化時代の先端技術講演会(協賛) 国民工業振興会
- (10月)
- 第30回自動制御連合講演会(協賛) 計測自動制御学会
- 第38回塑性加工連合講演会(共催) 日本塑性加工学会
- 第34回腐食防食討論会(協賛) 腐食防食協会
- 浮防波堤—現状と課題—に関するシンポジウム(協賛) E C O R 日本委員会
- 講習会「エキスパートシステム：方法論と応用」一次世代エキスパートシステムの基盤技術を中心に—(協賛) 計測自動制御学会
- 第21回化学工学の進歩講習会「燃焼・熱工学」(協賛) 化学工学協会
- 第10回科学講演会—先端科学技術を求めて(協賛) 理化学研究所
- 第30回標準化全国大会(協賛) 日本規格協会
- 第13回腐食防食工学入門講習会(協賛) 腐食防食協会
- '87新テクノロジーシンポジウムPart 5「わかりやすい熱と流れのコンピュータアナリシス」(協賛) 日本能率協会
- '87新テクノロジーシンポジウムPart 4「機械設計における振動と制御コンピュータシミュレーション」(協賛) 日本能率協会
- 第12回複合材料シンポジウム(協賛) 日本能率協会
- (11月)
- 第6回アコースティック・エミッション総合コンファレンス(協賛) 日本非破壊検査協会
- 第28回高圧討論会(共催) 第28回高圧討論会準備委員会
- 第1回機械、構造物の強度設計・安全性評価に関するシンポジウム(協賛) 日本材料学会
- 第14回固体イオニクス討論会(共催) 固体イオニクス学会
- 第10回工業教育に関する講演会(協賛) 日本工業教育協会
- 第28回真空に関する連合講演会(協賛) 日本真空協会
- 中級者のための現代制御論基礎講習会(協賛) 計測自動制御学会
- 第13回「システムシンポジウム」(協賛) 計測自動制御学会
- 第4回ビギナーズ・セミナー「新しいセラミックス開発の鍵」(協賛) 窯業協会
- 昭和62年度材料科学基礎講座—材料の微小部分を探る—(協賛) 日本材料科学会
- 第23回 Chemical Abstracts 利用法講習会(共催) 化学情報協会
- 第655回講習会「高温超電導材料の動向と実用化」(協賛) 日本機械学会
- 昭和62年度研究発表会(協賛) 金属材料技術研究所
- 講習会「粉末結晶回折実験と解析法入門」(協賛) 日本結晶学会
- 第14回固体イオニクス討論会(協賛) 第14回固体イオニクス討論会
- 耐熱材料の新しい流れ(協賛) 日本学術振興会耐熱金属材料第123委員会
- システムと制御チュートリアル講座 制御工学へのガイドライン最新のモデリング理論と Know-How(協賛) 日本自動制御協会
- 先端材料の新潮流〔合同講演会〕(協賛) 日本化学会
- シンポジウム・人間と鉄(後援) 鉄の歴史村・鉄の歴史博物館
- 第72回腐食防食シンポジウム「エネルギー関連機器における高温腐食の問題点と対策」(協賛) 腐食防食協会
- '87計装制御技術会議(協賛) 日本能率協会
- Morris Cohen 教授特別講演会(協賛) 日本学術会議材料工学研連
- (12月)
- 第3回先端材料技術シンポジウム(協賛) 先端材料技術協会
- 第24回X線材料強度に関する討論会「新素材の材料評価とX線回折」(協賛) 日本材料学会
- 固体イオニクス研究会(協賛) 固体イオニクス学会

'87センシング技術応用セミナー「最近の画像処理技術」
(協賛) センシング技術応用研究会
講習会「表面の評価」(協賛) 日本結晶学会
'87新テクノロジーシンポジウムPART6「地域開発と
資源エネルギー」(協賛) 日本能率協会
(1月)
「防音・防振の技術と材料の講習会」(協賛)
日本材料学会
最近の電子顕微鏡技術と材料開発(協賛)
日本金属学会
昭和62年度日本分光学会赤外ラマン研究部会シンポジ
ウム(協賛) 日本分光学会
シグナル・システム・コントロール(SSC)シンポ
ジウム(協賛) 日本自動制御協会
'88新テクノロジーシンポジウムPART8「最新の蓄熱
と昇温・熱交換技術の開発と実例」(協賛)
日本能率協会
第8回海洋工学シンポジウムワークショップ(21世紀
に向けての海洋開発)(協賛) 日本造船学会
第111回塑性加工シンポジウム「プレス加工の最適化と
データベース」(協賛) 日本塑性加工学会
冬季セミナー 湿式処理技術の最近の進歩(1)(協賛)
金属表面技術協会
'88新テクノロジーシンポジウムPART7「パソコンに
よる有限要素解析とプリポストプロセッシング」
(協賛) 日本能率協会
(2月)
粉粒体の計測と制御講習会(協賛) 計測自動制御学会
第2回熔融炭酸塩型燃料電池シンポジウム(協賛)
電気化学協会熔融塩委員会
第11回ウィンターセミナー「レーザ加工現場のための
加工技術」(協賛) レーザ協会
'88新テクノロジーシンポジウムPART10「小形歯車の
設計・製造・計測技術シンポジウム」(協賛)
日本能率協会
第38回自動制御講習会「知識工学のシステム制御への
応用-II」(協賛) 日本自動制御協会
微粉体の乾式・湿式分級技術に関する講習会(協賛)
日本鋳業会

3. 調査・研究事業

3.1 共同研究会

共同研究会は19部会、14分科会、9小委員会から構成され鉄鋼製造技術に関する各種の研究を共同で行なった。

共同研究会は運営委員会のもとに運営されている。

共同研究会は臨時協会事業検討委員会報告を受けてその主旨に則り、対応案を作成し、各部会、分科会の了承を得て、62年度の活動を行なった。又、部会、分科会の開催地の費用負担を軽減するために討議会場費、懇親会費、昼食費、配事費等の見直を行なった。

3.1.1 製鉄部会(部会長:昭和62年5月まで飯塚

元彦君、それ以降渋谷 悌二君)

昭和62年度は2回の部会を開催した。

1) 第70回部会は講演「高炉操業管理システムの開発と適用」(鋼管・福山)および「神戸3高炉における最近の操業について」(神鋼・神戸)を実施した。共通議題は「焼結鉱の歩留向上対策」であり、更に自由議題9件の発表、コークス部会報告を実施した。

2) 第71回部会は講演「焼結鉱新評価技術とその応用」(新日鉄・製鉄研究センター)を実施した。共通議題は「高炉の長寿命化技術」であり、自由議題9件の発表及びコークス部会報告を実施した。

3.1.2 コークス部会(部会長:石川 泰君)

昭和62年度は2回の部会を開催した。

1) 第34回部会は講演「連続式コークス製造法の開発」(新日鉄・第三技研)を実施した。共通議題は「コークス炉乾留熱量低減の為の技術課題と対策について」であり、自由議題5件の発表及び製鉄部会報告を実施した。

2) 第35回部会は共通議題「コークス炉移動機械、炉蓋、金物の設備管理について」であり、自由議題5件の発表及び製鉄部会報告を実施した。また、特別報告として昭和62年9月西独・エッセンで開催された"1st. International Cokemaking Congress"出席報告を実施した。

3.1.3 製鋼部会(部会長:甲谷 知勝君)

昭和62年度は2回の部会を開催した。

1) 第96回部会は、重点テーマとして「溶銑予備処理とその吹錬技術」をとりあげ6件の研究発表と討論を行なった。また自由議題として14件の研究発表があった。この他、特別講演(I)として「呉製鉄所における製鋼技術の現状」について山上哲也君より、また特別講演(II)として「Continuous Casting of Steel 1985」(IISI CC Special Study Teamに参画して)について新日本製鉄(株)本社椿原治君より、それぞれ講演があった。

2) 第97回部会は、重点テーマとして「連铸片の偏析改善技術」をとりあげ9件の研究発表と討論を行なった。また自由議題として14件の研究発表があった。この他、特別講演として「室蘭製鉄所における製鋼技術の現状」について松永久君より講演があった。

3.1.4 電気炉部会(部会長:小倉 貞一君)

昭和62年度は2回の部会を開催した。

1) 第29回部会は共通テーマとして「アーク炉の設備故障とその低減対策」を取り上げ、24件の研究発表と討論を行なった。また、自由テーマとして2件の研究発表があった。

2) 第30回部会は共通テーマとして「アーク炉の溶解・精錬技術について」を取り上げ19件の研究発表と討論を行なった。更に自由テーマとして5件の研究発表があった。

3.1.5 特殊鋼部会(部会長:栗栖 敬君)

昭和62年度は2回の部会を開催した。

1) 第82回部会は、共通テーマとして「二次溶解(VAR

・ESR) 技術および炉外精錬によるその代替」を取り上げ、10件の研究発表と討論を行なった。更に自由テーマ5件の研究発表および特別講演として「原子力用材料の発展」(日立・日立研)を行なった。

2) 第83回部会は共通テーマとして「ステンレス鋼の連続鋳造技術の改善」を取り上げ、13件の研究発表と討論を行なった。更に自由テーマ9件の研究発表と特別講演「当社製造技術の現状」(山特)を行なった。

3.1.6 圧延理論部会 (部会長: 62年3月まで中川吉佐衛門君, 以降林千博君)

部会は年2回開催され鋼板, 条鋼, 鋼管の各圧延に関する基礎から応用にいたる範囲の研究が自由テーマ形式で発表された。又, 第86回部会より新素材関係の研究報告も発表された。

3.1.7 鋼板部会 (部会長: 昭和62年6月まで歌橋千之君, 7月より柳澤治明君)

鋼板部会は, 分塊, 厚板, ホットストリップ, コールドストリップの4分科会より構成される。

1) 分塊分科会は, 昭和62年度に1回の分科会を開催した。第64回は条部門のみの分科会として開催され, 共通議題として「品質保証体制」をとりあげ発表と討論が行なわれた。特別講演として「棒線製造部門における課題」(鋼板製造コストとの対比から見)について小椋徹也君より講演があった。

2) 厚板分科会は, 昭和62年度に2回の分科会を開催した。発表, 討議はスタッフグループと作業長グループに分かれて行なった。第63回は, スタッフグループのみの分科会を開催し, 「工場操業状況報告」, 「HCRの現状と対策」, 第64回は, スタッフグループのテーマが「直行率(直行率阻害要因への取り組み)」, 作業長グループのテーマが「機動化, 多能化」をそれぞれとりあげ研究発表と討議を行なった。

3) ホットストリップ分科会

① 年2回春, 秋各1回ずつ開催され, 内容は共通議題と自由議題とから成っている。前者は操業状況調査の他第46回は鋼管・京浜で「設備改造, 新設」を取り上げた。尚, 当分科会は62年度より秋の分科会を東京(各社の本社)で開催することとしたため, 第47回の共通議題は省略した。東京大会の第1回は鋼管本社で開催した。

② A I S Eプラント調査団の受け入れを4月に行なった。ホットストリップミルのStrip Profileとflatnessに関しプラント訪問の調査を行ないたいとの依頼を受けホットストリップ分科会で対応し, 事前質問の回答およびプラント訪問調査の受け入れを行なった。

4) コールドストリップ分科会

① 年2回開催され操業状況調査表, 自由議題アンケートおよび各社の自由議題発表が行なわれている。自由議題としては, 第45回は「冷間圧延油について」, 第46回は「冷延工場(周辺を含む)の要員について」を取り上げた。又, 特別報告書「わが国におけるコ

ールドストリップ設備仕様と工場レイアウト」62年末に出版した。

3.1.8 条鋼部会 (部会長: 昭和62年6月まで小島勢一君, 以降西崎允君)

当部会は大形, 中小形, 線材の3分科会によって構成されている。

1) 大形分科会

① 第45回では研究テーマとして「圧延ロール管理」を取り上げ, 更に自由テーマ5件の発表および第43回に引き続いてグループ別技術懇談会(工場長グループ, スタッフグループ, 作業長グループ)を行なった。

② 第46回では「大形工場に於ける工程管理の現状と問題点—注文から倉庫出荷まで—」を研究テーマとして取りあげ, 更に自由テーマ6件の発表および特別講演「君津大形工場建設思想と今後の課題」(新日鉄本社)を行なった。

2) 中小形分科会

① 第62回では研究テーマとして「要員合理化について(高齢化対策を含む)」(普通鋼グループ), 「組替え, カリバー替え, 型決めについて」(特殊鋼グループ)を取り上げ, 更に自由テーマ18件の発表を行なった。

② 第63回では研究テーマとして「組替え, カリバー替え, 型決めについて(ロール管理を含む)」(普通鋼グループ), 「生産管理システム(納期短縮在庫低減を含む)」(特殊鋼グループ)を取り上げ, 更に自由テーマ17件の発表を行なった。

3) 線材分科会

① 第63回ではテーマ研究として「高速圧延について・操業, 設備保全管理に関する問題点と対策状況」を, また作業長テーマとして「ミスロール減少対策事例」を取り上げ, 更に自由テーマ13件の発表を行なった。また, 特別講演「条鋼圧延における電機設備制御の進歩と現状」(東芝)を行なった。

② 第64回ではテーマ研究として「組替え, カリバー替えについて」を, また作業長テーマとして「品質改善事例」を取り上げ, 更に自由テーマ13件の発表を行なった。

3.1.9 鋼管部会 (部会長: 森禮次郎君)

当部会の活動は, 部会および継目無鋼管, 溶接鋼管の2分科会で構成されており, それぞれ年2回の部会, 各分科会を開催している。部会では第48回および第49回の共通議題として各々「最近のコスト合理化への技術的取組みと今後の展望」, 「鋼管の仕様処理業務について」を取り上げ, また特別議題としては, 各々「鋼管とプラスチック」, および「セラミックスの鉄鋼への応用」の講演を行なった。さらにそれぞれの部会において, 自由議題発表と分科会報告を行なった。

1) 継目無鋼管分科会では, マンネスマン関係及び熱間押出・冷牽関係の問題を取り上げている。マンネスマン関係では共通議題として, 第41回分科会で「低操

業下における要員配置について、「継目無鋼管の表面肌について」を報告した。また熱間押出・冷牽関係では、共通議題として上記分科会で「ステンレス鋼管製造における品質管理について」、「鋼管の寸法精度・表面性状等の問題点および対策」を報告した。

2) 溶接鋼管分科会では、電縫・鍛接関係および電弧溶接関係の問題を取り上げている。電縫・鍛接管関係では、第41回分科会で共通議題として「CW塗覆装用鋼管の製造と精整検査作業について」および「電縫鋼管の小ロット化対応方法について」を報告した。

また電弧溶接関係では、共通議題として上記分科会で「各ライン休止分析と効率化」、「UOE工場における自動および制御システムについて」を報告した。

さらに各分科会共、工場操業状況が参加事業所より報告されている。

3.1.10 鉄鋼分析部会（部会長：佐伯 正夫君）

鉄鋼分析部会は、化学分析、機器分析の2分科会と表面分析、析出物分析小委員の2小委員会で構成されている。部会は、年2回開催され（各分科会、各小委員会が同時に開催）、これ以外に各分科会、各小委員会が適宜開催された。

1) 化学分析分科会ではリン分析WGとほう素分析WGがそれぞれ共同実験とその解析を進めた。さらに、ほう素WGではJIS改正案の作成に着手した。また、新WGとして「Ta-Nb定量法のJIS改正」を発足し、さらに「Cr-V電位差滴定法のJIS化」「As定量下限拡大」「鉄鋼石JISの改正」を新テーマとして取り上げ、活動することにした。

2) 機器分析分科会は、ICP分析WGでJIS規格の最終原稿の作成を終了した。発光分析における微量元素定量精度の確認WGでは技術検討結果の整理とまとめを行なっている。鉄鉱石の蛍光X線分析方法の規格改訂WGでは規格改訂素案の作成を完了した。

3) 表面分析小委員会ではイオンスパッタリング、AES、XPS、GDS等による状態分析および定量分析に関する第2期共同実験と解析を行なった。

4) 析出物分析小委員会は、鋼中の微細析出相の化学的抽出分離法に関して共同実験を行なう目的で本年度発足した。

3.1.11 熱経済技術部会（部会長：樋渡 健明君）

当部会は年2回開催し、小委員会も含めて活動している。

1) 第80回部会では、研究議題として「合同製鉄、中山製鋼の省エネルギー」、記念講演として「環太平洋圏の鉄鋼高炉業界の現状と展望」、「これからの燃焼技術」、さらに自由討論10件の報告を行なった。

2) 第81回部会では、特別報告「エネルギーバランスまとめ」、研究議題「加古川製鉄所における燃焼・伝熱技術の開発」、統一議題として冷却技術研究小委員会報告の「鉄鋼製造プロセスにおける冷却技術」、および自由討論5件、自由議題12件の報告を行なった。

3.1.12 計測制御部会（部会長：昭和62年7月まで

高田 努君、それ以降遠山 一郎君）

昭和62年度は2回の部会を開催した。

1) 第95回部会では、製鉄2件、製鋼3件、圧延11件、エネルギー1件、製品検査2件、新技術5件、保全技術1件、その他1件の合計26件の研究発表を実施した。

2) 第96回部会では、製鉄4件、製鋼3件、圧延10件、製品検査4件、新技術7件、その他2件の合計30件の研究発表を実施した。

3.1.13 調査部会（部会長：昭和62年5月まで内仲 康夫君、それ以降足立 芳寛君）

昭和62年度は2回の部会を開催した。

今年度活動テーマは「海外鉄鋼業の技術力と技術開発力の現状分析」であり、第14回部会では中間報告、第15回部会では終了報告を実施した。

3.1.14 運輸部会（部会長：石川 勝敏君）

部会は年1回開催し、共通議題は1年間の小委員会活動で検討した結果を報告している。

第12回部会では他産業物流調査小委員会の調査結果を共通議題として報告するとともに、自由議題13件の発表を行なった。

3.1.15 品質管理部会（部会長：野寄 徳彦君）

昭和62年度は2回の部会を開催した。

1) 第56回部会では、共通議題「品質不良低減活動について」にて論文発表15件（線棒関係9件、板関係6件）と15社、36事業所、17品種を対象としたアンケート結果報告及び非破壊検査小委員会活動報告を実施した。また、神鋼・神戸における品質管理システムの現状と課題（神鋼・神戸）と題する特別講演を実施した。

2) 第57回部会では共通議題「製造部門との情報伝達体制について」にて論文発表15件とアンケート結果報告及び機械試験小委員会活動報告を実施した。

また「日新・堺における品質管理活動の現状と課題」（日新・呉）と題する特別講演を実施した。

3) 非破壊検査小委員会では「鉄と鋼」に次の2件の活動報告を投稿した。

① 音響異性を有する鋼溶接部の超音波斜角探傷法（鉄と鋼第73年第6号、なお本件は第114回講演大会にて山岡賞を受賞した。）

② 鉄鋼におけるNDE技術者の教育訓練と資格認定制度（鉄と鋼第73年第8号）

3.1.16 設備技術部会（部会長：昭和62年6月まで宮脇芳治君、それ以降久保 発喜君）

当部会は鉄鋼設備、圧延設備、電気設備の三分科会から成り、各々年2回開催されている。

1) 鉄鋼設備分科会

① 第36回分科会では共通議題I「転炉本体設備の問題点と対策」の論文発表6件、共通議題II「溶銲予備処理設備の問題点と対策」の事例発表6件と簡易アンケートまとめ、保全指標まとめ及び自由議題3件の発表を実施した。

② 第37回分科会では共通議題「高炉における微粉炭吹込設備（PCI）の問題点と対策」の論文発表8

件、簡易アンケートまとめ、保全指標まとめ及び自由議題10件の発表を実施した。

また「新素材の現状と動向」(新日鉄・新素材事業部)と題して特別講演を実施した。

2) 圧延設備分科会

① 第36回を新日鉄・大分で「炉の保全」および「設備費低減」。

② 第37回を鋼管・京浜で「修繕コストを下げるための長寿命化対策」および「圧延設備の腐食事例と対策」を取上げた。

専門委員会を設け各社アンケートの取りまとめ解析を行ない討論を行なっている。

尚、第35回より保全指標として鉄鋼各社設備の稼働実態をクリアにした「設備稼働状況」調査表について第36回、第37回でも実施した。

3) 電気設備分科会

① 第22回を中山製鋼所で「電気部門におけるO A化の実態と今後の動向」

② 第23回を新日鉄・名古屋で「電気保全の実態調査」を取上げた。専門委員会でのアンケート集約結果解析発表および各社からの自由テーマの発表を行なっている。

尚、テーマ名「光技術の将来動向」のメーカレクチュアがあった。

3.1.17 耐火物部会 (部会長：昭和62年6月まで江本寛治君、以降森本 忠志君)

当部会は年2回開催した。

① 第41回では「製鉄用、製鋼用、連铸用耐火物」を主体とする研究発表を行なった。また、特別講演「室蘭製鉄所における耐火物の現状」(新日鉄・室蘭)を行なった。

② 第42回では「セラミックファイバー、転炉用耐火物」を主体とする研究発表があった。また、「名古屋製鉄所における耐火物の現状と取組みについて」(新日鉄・名古屋)および「最近の電気炉製鋼法の進歩」(トピー工業・本社)の2件の特別講演を行なった。

当部会では西独鉄鋼協会と独自に日独耐火物交流会議を2年毎に開催しているが、昭和62年11月に第3回交流会議を開催し、日独からそれぞれ多数論文が発表された。

3.1.18 原子力部会 (部会長：北西 碩君)

当部会がこれまで約10年間維持してきた特許8件のうち7件は61年2月に廃棄したが、残り1件については技術小委員会と共同研究参加会社17社の承認を経て、62年3月に石川島播磨重工業(株)と三菱重工業(株)に譲渡した。尚、その譲渡事務手続きの過程で、これら特許の特別会計収支決算についても報告し、共同研究参加会社の承認を得た。

3.1.19 亜鉛めっき鋼板部会 (部会長：62年9月まで川崎文一郎君、以降久保田 正朗君)

当部会は年2回開催され、内容は操業状況、共通議題アンケート、および各社の品質、操業、設備改善事

例を発表する自由議題で構成されている。第4回は(住金・鹿島)で「形状、外観品位の向上対策」、第5回は鋼管・京浜で「品質保証システムの改善と進歩」を取り上げた。

3.2 特定基礎研究会

本研究会は、鉄鋼業界からの要望課題について本会として基礎的な研究を行なうことを目的としている。

3.2.1 石炭の炭化反応機構部会 (部会長：持田 勲君)

当部会はコークスの最も合理的な製造技術、およびその関連で石炭の高度な有効利用技術の開発研究のための活動を行なった。昭和62年度は2回の部会を開催し、石炭の界面化学、石炭のキャラクタリゼーション手法、コークス炉内の炭化反応、炭化反応機構の化学、炭化反応生成などについて、研究委員によるその活動状況の報告討議を行なった。

3.2.2 画像解析による材料評価部会 (部会長：武内 朋之君)

当部会は結晶粒度、偏析・介在物、破面の三分科会で構成され部会は2回、分科会は各3回開催した。

昨年度は三分科会とも参加各社の画像処理の実状の確認と問題点の明確化を目的とした共通試料の持ち廻り実験をほぼ終了し、標準化の検討に着手した。

また、パソコンレベルでの画像解析用ソフトウェアの開発を進行させた。

3.2.3 電磁気冶金の基礎研究部会 (部会長：浅井 滋生君)

当部会は電磁気力が有する熔融金属形状制御機能の基礎的研究を行なうとともに、本機能を利用したモールドレス铸造の試行実験を行ない、利用技術の開発に向けて研究活動を行なっている。昭和62年度は、3回の部会を開催した。第6回部会では、1件の招待講演および4件の研究発表、第7回部会では、1件の招待講演および6件の研究発表、第8回部会では、1件の招待講演および5件の研究発表と各部会毎に海外文献の抄録説明を行なった。

3.2.4 鉄鋼材料の相界面・結晶粒界の設計と制御部会 (部会長：石田 洋一君)

当部会は各種界面の原子レベル構造とその熱的、力学的諸性質との相関を明らかにするため、高分解能電子顕微鏡による静的観察と高温ステージを用いた動的観察を進めている。本年度は3回の部会を開催し、研究成果の発表と研究方針の検討を行なった。

3.3 鉄鋼基礎共同研究会

当研究会は鉄鋼に関する基礎的研究を推進するためのもので、日本鉄鋼協会、日本学術振興会、日本金属学会の三団体で運営されている。昭和62年度は「鉄鋼の環境強度部会」が終了し、鉄鋼の急速凝固、高純度鋼、界面移動現象、鉄鋼の結晶粒超微細化の4部会が現在活動している。

3.3.1 鉄鋼の環境強度部会 (部会長：駒井 謙治郎君)

当部会は鉄鋼の海洋環境下における鉄鋼の環境強度について調査、共通試験研究を行ない、本年は東京(新丸ビル)においてシンポジウムを行ない、すべての研究を完了した。

3.3.2 鉄鋼の急速凝固部会(部会長:大中 逸雄君)

当部会は鉄鋼の急速凝固現象、凝固組織に関する冶金学および伝熱工学的基礎研究を進めている。

本年度は研究最終年度で、4回の部会を開催し研究発表と討論を行なった。

3.3.3 高純度鋼部会(部会長:木村 宏君)

高純度鋼における各種合金元素、不純物等の鋼の諸性質におよぼす影響を把握研究中で、第12回、13回、14回、15回の合計4回の部会を開催し、各々3件の各委員の研究発表を行なった。

尚、63年度は活動の最終年度のため、成果報告書を取りまとめる予定である。

3.3.4 界面移動現象部会(部会長:徳田 昌則君)

当部会は高温における製錬の界面現象及び界面近傍で起こる移動現象を基礎的に解明することを目的に研究活動を実施した。

昭和62年度は2回の部会を開催し、スラグの泡立ち現象、容量係数、界面物性の測定、マランゴニ現象などについて、ワーキンググループによる研究活動を実施しており、その活動状況についての報告討議を行なった。その他、第4回8件、第5回9件の研究発表があった。

3.3.5 鉄鋼の結晶粒超微細化部会(部会長:徳永洋一君)

当部会は、加工熱処理、急速凝固、粉末冶金などによりまず超微細化の手法を確立することを目指して研究活動を行なっている。昭和62年度は、3回の部会を開催した。第4回部会では5件、第5回部会では4件、第6回部会では5件のレビューおよび研究発表を行なった。

3.4 標準化委員会

本委員会は、鉄鋼に関する工業標準化を推進するため、2部会31分科会の構成で活動を行なった。

3.4.1 品種別業務分科会

1) 普通鋼分科会

溶接構造用圧延鋼材(SM)、溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材(SMA)、鋼板・形鋼の寸法許容差規格の改正原案の作成、鉄塔用高張力鋼鋼板・山形鋼の新規原案の作成を行なった。

2) 特殊鋼分科会

JIS G4107、G4108のS I移行予告規格案の作成及び日本ベアリング工業会からの要請に基づき高炭素クロム軸受鋼規格の改正原案の作成を行なった。

3) 鋼管分科会

鉄塔用高張力鋼鋼管の新規原案の作成、高圧ガス容器用継目無鋼管規格の改正原案の作成、及びS I移行予告規格案30件の作成を行なった。

4) 機械試験方法分科会

機械試験法21規格のS I移行のための改正原案作成の準備を進めている。

5) 鋼材表面欠陥分科会

協会技術指針TR001~009の内、鋼管を除く鋼片、形鋼・平鋼、棒鋼・線材、厚鋼板、熱延鋼板、冷延鋼板、亜鉛鉄板・着色亜鉛鉄板、ぶりきの7件の形状及び外観きず用語の定義の改正を行い、12月改訂版を出版した。

6) S I単位対策小委員会

昭和66年1月1日からJ I Sに採用する単位を国際単位系(S I単位)に移行させることになり、昭和61年度及び昭和62年度に分けて60規格の予告規格を普通鋼分科会、特殊鋼分科会及び鋼管分科会で作成した。そこで切換内容を一冊にまとめS Iへの切換え準備の便を計るために小冊子“S I単位と現在単位による規格値の比較対照表”を1万部印刷し諸官庁、学協会、関係団体及び需要家に配布しPRを行なった。

3.4.2 I S O鉄鋼部会

I S O原案の検討、日本コメントの作成、国際共同実験の実施などを行なったほか、次の13のI S O会議に延べ21名の日本代表を派遣した。また、本年に受理したI S O文書は、TC17関係253件、TC5関係20件、TC67関係1件、TC164関係67件、DIS27件、IS12件である。

◦TC17/SC19	2月3~5日	ミラノ
◦ISO/TC17/WG16-IEC68/WG1		
	3月26~27日	パリ
◦TC17/SC19/WG1	5月5~7日	ミラノ
◦TC17/SC4	5月18~22日	クラドノ
◦TC17/SC9/WG4	5月26~27日	ロンドン
◦TC17/EC	6月4~5日	マンチェスター
◦TC17/SC3	6月9~12日	パリ
◦TC164/SC3	9月14~15日	ゲイザースバーグ
◦TC164/SC1	9月16~18日	〃
◦TC164/SC4	9月21~23日	〃
◦TC5/SC1	10月13~15日	パリ
◦TC17/SC9/WG4	10月28~29日	ハミルトン
◦TC164/SC2	11月10~12日	ブラハ

3.4.3 J I S原案作成分科会

送電鉄塔用鋼材の大形化、軽量化から非調質高張力鋼が出現したが、これのJ I S化について工業技術院から検討依頼があった。そこで、鋼板、山形鋼については普通鋼分科会、鋼管については鋼管分科会が担当し、鍛造フランジについては日本鍛造鋼会の協力を得て鉄塔用高張力鋼鍛造フランジJ I S原案作成分科会を設置して検討を行ない、引張強さ60~75kgf/mm²の鉄塔フランジ用高張力鋼鍛鋼品の新規J I S原案を作成し、工業技術院へ答申した。

3.5 高温強度研究委員会

本委員会のもとでは4分科会が活動しているが、各分科会の主な活動状況は次の通りである。

1) 高温熱疲労試験分科会

62年度より「セラミックスの高温熱疲労に関する文献調査」を新しいテーマとして取り上げ、活動を開始した。また、VAMASから参加要請のあったLCFラウンドロビンテストについても当分科会が協力することとなり、WGを組織して試験を開始した。

2) 切欠き効果試験分科会

「直流電位差法による切欠き材の高温き裂発生寿命検出法の推奨案の作成」を今期テーマとして取上げ、共同試験を実施し、現在報告書にまとめ中である。

3) 高温脆化分科会

「耐熱鋼の高温荷重時効材の室温脆化と諸特性」について、共通試験を実施中である。

3.6 材料研究委員会

共通テーマに「鉄鋼の変態挙動—実用材料の変態と性質—」を取り上げた初年度の昨年に引き続き、各社の関連研究紹介および製鉄所の研究所見学を中心に活動してきた。

第62回 協会

第63回 住金・総研

第64回 大同・中研

第65回 新日鉄・第三技研

で開催した。

3.7 国際鉄鋼技術委員会

昭和62年度は2回の委員会を開催した。

第1回はIISI TECHCO-19, 第2回は第21回IISI TECHCO STEERING GROUP 会議とIISI TECHCO MAINTENANCE STUDY GROUP 東京開催計画が報告された。

3.8 熱延プロセス冶金研究委員会

本年度は3回の委員会を開催し、各々2件の研究報告と討論を行なった。また、これまでの研究成果を取りまとめ、報告書「材質の制御と予測」を63年3月に出版し、研究活動を終了することとなった。

3.9 チタン材料研究会

チタンの応用、製造プロセス関連した材料特性に関する研究を行なうことを目的とする当委員会は活動予定期間は3年で、今年は第5回……中心テーマなし、第6回「腐食、疲労、環境破壊」、第7回「破壊特性と新材料開発」、第8回「チタン材料の加工と溶接」を中心テーマに取り上げた。

3.10 高級ラインパイプ研究会

当研究会は、BT (Burst Test) 分科会とHIC (水素誘起割れ) 分科会の2分科会より構成されている。BT分科会では、パイプラインの破壊安全性と材料特性の関係についての研究、文献調査を行なった。HIC分科会では、これまで実施してきたHICテストの結果について“Corrosion, Its Control and Monitoring in Gas Pipelines and Tubulars” (Corrosion '87 米国 '87.3) へ、またUMIST国際会議(ロンドン '87.5)へ論文発表した。これまでの研究成果を報告書としてまとめる。

4. 国際交流事業

4.1 第5回日本・チェコスロバキア合同シンポジウム

昭和62年3月18日(水)、19日(木)の2日間、東京新日本製鉄(株)新山谷研修センターにおいて開催した。第5回シンポジウムは「鉄鋼材料の損傷劣化」を6セッションに分れ、日本から14件、チェコスロバキア側10件の計24件の論文発表と討論が行なわれた。

日本から菊池実実行委員長(東京工業大学教授)ほか35名、チェコスロバキア代表団はM. Dlouhý 団長ほか6名が参加した。チェコスロバキア代表団はシンポジウム終了後、3製鉄所の見学訪問を行なった。

4.2 第7回日本・ドイツセミナー

昭和62年5月5日(火)、6日(水)の2日間、ドイツ・デュッセルドルフ市のドイツ鉄鋼協会大講堂において開催された。第7回セミナーは1. Production of High Purity Steels. 2. Continuous Casting and Mechanical Properties. 3. Rapid Solidification of Steels の3テーマを取り上げ7セッションに分れ、日本側10件、ドイツ側9件の論文発表と討論が行なわれた。

日本から萬谷志郎団長(東北大学教授)ほか10名、ドイツ側はDr. E. Görl 実行委員長ほか85名が参加した。セミナー終了後4大学・研究所、5製鉄工場の見学訪問を行なった。

4.3 第4回日本・中国鉄鋼学術会議

昭和62年11月26日(木)、27日(金)の2日間、神戸国際会議場において開催した。第4回会議は1) Ironmaking, 2) Automation of Iron and Steel Production, 3) Steel-making (Physical Chemistry of Steelmaking, Steel-making Processes, Solidification) の3テーマを取り上げ、日本側20件、中国側15件の論文発表と討論が行なわれた。

日本から中川龍一実行委員長(金属材料技術研究所所長)以下92名、中国から陶少杰団長以下15名が参加した。会議終了後中国代表団は3大学・研究所、3製鉄工場の見学訪問を行なった。

4.4 国際会議準備状況

4.4.1 International Conference on Physical Metallurgy of Thermomechanical Processing of Steels and Other Metals —THERMEC-88— (加工熱処理の物理冶金に関する国際会議)

実行委員会(田村今男委員長)では7月に講演の申込の締切りを行ない119件の発表論文の採用を行ない、11月に仮プログラム、参加登録方法等を記載した3rd Circularを発行、論文提出者を含め国内外関係者ならびに団体に配付し、会議参加募集を行なった。

4.4.2 International Conference on Zinc and Zinc Alloy Coated Steel Sheet —GALVATECH '89— (亜鉛および亜鉛合金めっき表面処理鋼板に関する国際会議)

実行委員会(久松敬弘委員長)では会議開催時期を

1989年9月5日(月)～7日(木)の3日間と会場を東京経団連会館に決定して、6月に1st Circularを、63年2月にKeynote Speakerを記載した2nd Circularを発行し、それぞれ国内外の関係者ならびに団体に配付し、発表論文の募集を行なった。

4.4.3 International Conference on Evaluation of Materials Performance in Severe Environments — Toward the Development of Materials for Marine and Other Uses (材料評価に関する国際会議—土木・海洋環境における材料挙動の評価と材料開発—) 実行委員会(高村仁一委員長)では会議開催時期を1989年11月20日(月)～23日(木)の4日間とし会場を神戸国際会議場に決定した。10月に1st Circularを発行し、会議のScopeとテーマを国内外の関係者ならびに団体に配付案内した。なお論文募集は1st Circularに対する関係者の反響を見たうえで、2nd Circularにおいて行なう予定である。

4.5 その他の国際交流

4.5.1 昭和62年度に協賛した国際会議

- 1) International Oxygen Steelmaking Congress
Linz, Austria, May 25—27, 1987
Eisenhütte Österreich
 - 2) The Fourth International Steel Rolling Conference — Science and Technology of Flat Rolling—
Deauville, France, June 1—3, 1987
IRSID/ATS
 - 3) 8th International Symposium on Plasma Chemistry —ISPC/TOKYO 1987—
東京, 日本, August 31—September 4, 1987
International Union of Pure and Applied Chemistry
 - 4) 1st International Cokemaking Congress
Essen, F. R. Germany, September 13—19, 1987
Steinkohlenbergbauverein/VDEh
 - 5) 2nd International Conference on Refractories
東京, 日本, November 10—13, 1987
耐火物技術協会
 - 6) International Symposium on The Mathematical Modeling of Metals Processing Operation
Palm Springs, Calif., U. S. A., November 29—December 1, 1987
The Metallurgical Society
- ##### 4.5.2 海外学協会との交流
- 昭和62年度の本会主要来訪者、海外への派遣者は次の通りである。
- 昭和62年3月18日, 19日 第5回日本チェコスロバキア代表团 M. Dlouhý 団長以下7名
- 昭和62年4月1日～3日 第113回講演大会ならびに第72回通常総会に出席
- 1) Prof. Merton C. Flemings (アメリカ MIT) 名誉会員推挙
 - 2) Prof. John F. Elliott (アメリカ MIT) 名誉

会員

- 3) Prof. Franz Oeters (ドイツ Technical Univ. Berlin)
- 4) Mr. M. Sodeik, Mr. K. Täffner (ドイツ Rasselstein) 討論講演発表

昭和62年4月13日 フランス IRSID 所長 Jean-Alex Michard

昭和62年4月20日 ベルギー CRM Dr Paul E. Niles

昭和62年5月4日～15日 第7回日独セミナーに萬谷志郎団長(東北大学教授)以下11名を派遣

昭和62年5月13日 世界冶金関係学協会専務理事会議(London)に常務理事三井太信を派遣

昭和62年5月25日～27日 International Oxygen Steelmaking CongressにKeynote Speakerとして共同研究会製鋼部会長甲谷知勝君を派遣: 演題 Stand und Entwicklungen der Blasstahlverfahren. 日本の講演発表数6件

昭和62年6月1日～3日 4th International Steel Rolling Congress—The Science and Technology of Flat Rolling— 会議のConference Councilとして加藤健三君(大阪大学教授)を派遣し、日本からの論文提出の調整等の作業を行なった: 日本の講演発表数26件

昭和62年6月15日～26日 アメリカの Association of Iron and Steel Engineers (AISE) の Plant Tour 代表团 Mr. William P. Gano III 団長 (Bethlehem 社) 以下6名

昭和62年9月22日～23日 International Conference Secondary MetallurgyにSurvey PaperのSpeakerとして宮下芳雄君(日本鋼管)を派遣: 演題 Recent Developments of Vacuum Treatment in Steelmaking. 日本の講演発表数4件

昭和62年10月9日～11日 第114回講演大会において A. G. Leatham (Osprey Metals), 金浩泳, 姜基鳳, 鄭鎮煥, 金結実(韓国産業科学技術研究所), 張俊善(大連工業大学)が講演発表を行なった。

昭和62年10月19日 スウェーデンの Jernkontoret 鉄鋼分析調査団 Dr. Veikko Sjöberg 団長以下4名

昭和62年10月23日 ドイツの VDEh 焼結工場の省エネルギー技術の調査団 Dr. Hans Beer 団長以下4名

昭和62年11月6日 VDEh 耐火物部会長 Dr. M. Koltermann ならびに Dr. G. Klages

昭和62年11月11日 世界冶金関係学協会専務理事会議(Düsseldorf)に木下亨専務理事ほか1名を派遣

昭和62年11月26日, 27日 第4回日本中国鉄鋼学術会議に中国金属学会代表团陶少杰団長(中国金属学会副理事長, 秘書長)以下15名

昭和63年1月12日 アメリカの Welding Research Council の Materials Properties Council 事務局長 Dr. M. Prager 他1名

5. 技術情報事業

鉄鋼技術情報センターは、センター運営委員会を中心として、センター編集委員会、情報検索委員会、図書資料委員会およびセンター共同研究会が設けられている。またJICST(特)日本科学技術情報センターへの協力、図書の整備、「鉄鋼技術総覧」の発行等を日常業務として運営されている。

事業は次のとおりである。

- 1) JICSTとの機械検索としての協力事業は、年間約4,500件の文献をインプットしている。また、年6回開催されるJICST主催の「JOIS研修会検索機能コース」に毎回講師を派遣している。
 - 2) 図書室は、プロシーディングス約1,300点、および数値データ集を収集し、ワードプロセッサによる検索システムを整備している。
 - 3) 毎月1,000部発行している「鉄鋼技術総覧」はCurrent AwarenessおよびSDIとしてのニーズに合せた内容で発行してきたが、「オンラインによる技術情報調査の普及により、その任務は終了した」との臨時協会事業検討委員会の勧告により、昭和62年12月号を以って廃刊とした。これと共に、センター編集委員会は解散した。
- 図書資料委員会では、主要企業の相互保管による協同体制を中心としたディポジトリライブラリにつき検討を開始した。
- 4) 鉄鋼協会共同研究会配布資料のマイクロフィッシュの頒布(部会、分科会参加会社に限定)および、その索引誌の発行を行なっている。マイクロ化による所蔵場所の効率化のために、「鉄と鋼」誌のバックナンバーのロールフィルムを作成、頒布している。

6. 鉄鋼標準試料事業

鉄鋼標準試料委員会は、本委員会1回、常任委員会6回開催したほか、技術グループ会議及び企画グループ会議を随時開催して需要家のニーズに沿って、品種の製造及び在庫率85%を目標に業務を行なった。

(1) 新製品の製造

高純度鉄シリーズ：3種(003-1)

工具鋼シリーズ：機器分析用(620-1)～(625-1)

ガス分析用：球形酸素3.4PPM(GS-6a)

(2) 更新品の製造

高純度鉄シリーズ：2種(002-2)

炭素鋼シリーズ：13炭素鋼(023-7)、55炭素鋼(057-4)

銑鉄シリーズ：1種1号A(110-8)、3種1号B(113-3)

専用鋼シリーズ：硫黄(240-10)、(241-8)、(243-3)、アルミニウム(332-3)窒素(367-7)

肌焼鋼シリーズ：S9CK(512-5)

工具鋼シリーズ：SKS2(601-8)

ステンレス鋼シリーズ：SUS304(651-10)、SUS310S(654-9)、SUS347(655-9)

微量元素シリーズ：2号(169-5)、4号(171-5)、6号(173-5)

(3) 分析依頼中

高炉スラグシリーズ：(900-1)～(904-1)

炭素鋼シリーズ：80炭素鋼(065-3)

工具鋼シリーズ：SKS1(600-10)、STK4(605-8)

肌焼鋼シリーズ：SCr21(513-5)、SCM22(514-5)、SNCM24(516-5)

フェロアロイシリーズ：シリコマンガ(705-3)

微量元素シリーズB：機器分析用(168-6)～(175-6)

ステンレス鋼シリーズ：機器分析用(650-11)～(655-11)

(4) 主たる検討事項

- ① 新製品「高炉スラグ標準試料」5品種の製造開始
- ② 新製品「球形酸素(3.4±0.6PPM)のガス分析管理試料」の頒布
- ③ 品種の整理削減と耐熱超合金の更新復活
- ④ 素材製造費、分析費、試料調製費及び外国標準試料の価格実態調査
- ⑤ 極微量元素シリーズ製造のための調査研究

V. 特別の会計による事業

1. 特別の資金による事業

1.1 表彰

昭和62年4月2日第72回通常総会に引続いて表彰式を行ない、下記の通り表彰した。

(1) 渡辺義介賞

八木 靖浩君 川崎製鉄(株)取締役社長

「我が国鉄鋼業の進歩発展、特に製鋼技術の発展と鉄鋼生産の近代化」

(2) 西山賞

田村 今男君 京都大学工学部金属加工学教室元教授

「鉄鋼材料の相変態および加工熱処理に関する基礎的研究」

(3) 服部賞

玉本 茂君 住友金属工業(株)専務取締役鹿島製鉄所長

「我が国製鋼技術の進歩発展と近代的一貫製鉄所の実現」

濤崎 忍君 川崎製鉄(株)取締役副社長

「熱間圧延技術の発展向上及び一貫生産管理の進歩」

(4) 香村賞

野口 祐正君 トピー工業(株)副社長

「高効率鋼材製造方法の確立と異形鋼の高品質化」

堀江 重榮君 日本鋼管(株)専務取締役新材料事業部長

- 「製鉄技術の進歩発展と技術研究体制の拡充・強化」
- (5) 渡辺三郎賞
新井 宏一君 愛知製鋼(株)取締役副社長
「特殊鋼製造技術と工場管理体制の確立」
- (6) 野呂賞
川合 保治君 九州大学名誉教授, 新日本製鐵(株)顧問
「協会活動とくに鉄鋼製錬部門の研究・講座・国際交流活動における貢献」
針間矢宣一君 川鉄テクノロジーサーチ(株)総合検査・分析センター総括技術室部長
「鉄鋼関係分析方法の標準化に関する貢献」
渡辺 十郎君 (株)日本製鋼所取締役技監
「压力容器用・原子力用鋼材の開発に関する貢献」
- (7) 俵論文賞
山岡 秀行君 住友金属工業(株)総合技術研究所鉄鋼研究センター鉄鋼研究部主任研究員
「充填層内における微粉を伴った気体の流れの挙動」
- 萬谷 志郎君 東北大学工学部教授
井口 泰孝君 東北大学工学部教授
山本 誠司君 新日本製鐵(株)釜石製鉄所製鋼部製鋼線材研究室
「熔融CaO-SiO₂-MgO, CaO-SiO₂-TiO₂系スラグにおける水蒸気溶解度および溶解速度」
- 岸 輝雄君 東京大学工学部境界領域研究施設助教授
大山 英人君 (株)神戸製鋼所材料研究所材料開発センター非鉄開発室
金 教漢君 東京大学大学院工学系研究科金属材料学科博士課程
「針状 α 組織を有するTi-6Al-4V合金のき裂進展機構と破壊靱性」
- 佐藤 広士君 (株)神戸製鋼所材料研究所材料開発センター耐食防食技術室主任研究員
下郡 一利君 (株)神戸製鋼所材料研究所材料開発センター耐食防食技術室室長
西本 英敏君 (株)神戸製鋼所材料研究所材料開発センター耐食防食技術室
三木 賢二君 (株)神戸製鋼所材料研究所材料開発センター耐食防食技術室
池田 貢基君 (株)神戸製鋼所材料研究所材料開発センター耐食防食技術室
岩井 正敏君 (株)神戸製鋼所加古川製鉄所鋼板開発部表面処理開発室
堺 裕彦君 (株)神戸製鋼所加古川製鉄所鋼板開発部表面処理開発室主任研究員
野村 伸吾君 (株)神戸製鋼所加古川製鉄所鋼板開発部表面処理開発室室長
「極値統計的手法による鋼板および亜鉛系めっき鋼板の穴あき腐食現象の解析」
- 栗林 一彦君 宇宙科学研究所助教授
堀内 良君 宇宙科学研究所教授
「18Niマルエージ鋼の強度と靱性におよぼす未再結晶溶体化処理の影響」
- (8) 渡辺義介記念賞
飯塚 元彦君 日本鋼管(株)新材料事業部主任部長
「製鉄技術の進歩発展, 特に大型高炉の設備および操業技術の向上」
大西 稔泰君 (株)神戸製鋼所鉄鋼生産本部神戸製鉄所副所長
「転炉による高級条鋼製造技術の確立」
釘宮 肇君 住友金属工業(株)取締役和歌山製鉄所副所長
「鋼板の新プロセス開発及び高級鋼板の開発と量産体制の確立」
久保田正郎君 日新製鋼(株)参与, 市川製造所長
「冷延・表面処理技術の向上発展」
斎藤 達君 川崎製鉄(株)水島製鉄所副所長兼企画部長
「一貫製鉄所におけるシステム技術の発展向上」
渋谷 庄平君 大同特殊鋼(株)星崎工場長
「特殊鋼製造技術の進歩発展」
田桐 浩一君 新日本製鐵(株)エンジニアリング事業本部技術協力事業部副事業部長
「製鋼技術の開発と発展向上」
立花 宏君 住友金属工業(株)本社鋼管技術部長
「小径冷間継目無鋼管の操業技術の進歩・発展」
平岡 昇君 (株)日本製鋼所室蘭製作所プラント協力部長
「大型鍛造鋼品製造の技術供与における国際的活動」
平松 裕更君 東洋鋼板(株)下松工場技術部長
「缶用材料製造技術の進歩発展」
平山 満男君 日本ステンレス(株)常務取締役技術部長
「ステンレス鋼板・鋼帯の製造技術の開発と発展向上」
藤原 俊朗君 新日本製鐵(株)技術本部電磁鋼板技術部長
「冷延・表面処理鋼板とその製造技術の開発, 並びに設備技術の開発」
丸岡 芳樹君 中外炉工業(株)専務取締役
「特殊鋼素形材熱処理の進歩発達」
毛利 良一君 新日本製鐵(株)条鋼技術部長
「特殊鋼棒線製造設備並びに製造技術の開発と近代化」
山鹿 素雄君 日本鋼管(株)京浜製鉄所副所長
「製鋼技術の発展向上」
- (9) 西山記念賞
榎並 禎一君 川崎製鉄(株)技術研究本部鉄鋼研究所厚板研究部長
「厚鋼板およびその製造技術に関する基礎的なら

びに工業的研究」

大森 靖也君 住友金属工業(株)総合技術研究所鉄鋼
研究センタ基礎研究部長

「鉄鋼材料の金属組織と機械的性質に関する研究」

川原 正言君 日本鋼管(株)技術開発本部中央研究所
第一材料研究部強度研究室長

「鋼材及び鋼構造物の疲労強度・安全性評価に関
する研究」

川和 高穂君 日本鋼管(株)技術開発本部中央研究所
第1プロセス研究部長

「鋼の連続製造技術の開発」

小林 三郎君 東北大学選鉱製錬研究所助教授

「製鉄反応の動力学的およびプロセス工学的研究」

権藤 永君 (株)中山製鋼所取締役技術部長

「製造プロセスの研究による高性能鋼の開発」

佐久間健人君 東京大学工学部金属材料学科教授

「鉄鋼材料およびセラミックスの組織学的研究」

谷 餘士雄君 (株)神戸製鋼所鉄鋼生産本部スラグ・
建材部長

「コンクリート補強材とその加工及び利用技術に
関する開発研究」

西島 敏君 科学技術庁金属材料技術研究所疲れ
試験部部长

「金属材料の疲れ特性に関する研究」

正岡 功君 (株)日立製作所日立研究所主管研究員

「エネルギー機器用材料の損傷防止に関する研究」

三塚 正志君 新日本製鐵(株)中央研究本部第三技術
研究所熱工学研究センター所長部長
研究員

「高温鋼材の冷却に関する研究」

水野 博司君 大同特殊鋼(株)研究開発本部中央研究
所副主席研究員

「工具鋼の研究開発」

森田 有彦君 日新製鋼(株)阪神研究所長

「溶融めっき鋼板の製造技術に関する研究および
新製品開発」

山川 宏二君 大阪府立大学工学部教授

「水素による鉄鋼材料の損傷に関する研究」

和田 要君 新日本製鐵(株)中央研究本部第三技術
研究所製鋼研究センター部長研究員

「高品位鋳片製造に関する研究開発」

昭和62年10月9日第114回講演大会開会式に引続い
て表彰式を行ない、下記の通り表彰した。

(1) 浅田 賞

大沢 恂君 (株)本田技術研究所技術顧問

「自動車工業における鉄鋼材料の開発および利用
技術の確立」

豊田 弘道君 東京大学名誉教授・成蹊大学工学部
教授

「計測・制御技術の進歩発展」

(2) 三島 賞

加藤 健三君 大阪大学工学部金属材料工学科教授

「金属塑性加工に関する基礎研究と開発工業化」

山岸憲一郎君 (株)不二越技術本部チーフ

「工具鋼に対するイオンを利用した被覆技術の研
究と工業化」

(3) 林 賞

吉村 恒夫君 三菱製鋼(株)取締役技術開発センター
所長

「電気炉と取鍋精錬炉との組合せによる特殊鋼品
質の微細調整技術の確立」

(4) 山岡 賞

(株)日本鉄鋼協会共同研究会品質管理部会非破壊検査
小委員会

「音響異方性を有する鋼溶接部の超音波斜角探傷
法」

(株)日本鉄鋼連盟連続式成形コークス研究開発委員会
「連続式成形コークス製造技術の確立」

1.2 湯川メモリアルレクチャー・湯川記念講演会の
開催

1) 本部における湯川メモリアルレクチャーを次の通
り、開催した。

昭和63年2月18日 農協ビル8階国際会議室

「宇宙開発の現状と将来」

宇宙開発事業団理事長 大澤 弘之君

「研究開発と創造性」

東北大学教授 西澤 潤一君

2) 各支部で次の通り湯川記念講演会を開催した。

① 北海道支部

昭和62年6月18日 室蘭工業大学学生会館

「多角化に向けての研究開発」

新日本製鐵(株)中央研究本部研究企画部次長

大橋 徹郎君

昭和62年11月19日 北海道大学工学部金属工学科会
議室

「リニアモーターカーの開発状況と今後の展望」

財団法人鉄道総合技術研究所開発企画部副長

沢田 一夫君

② 東北支部

昭和62年7月3日 東北大学工学部金属・材料系学
科大講義室

「酸化鉄の熔融還元」

東京大学名誉教授、日本鋼管(株)顧問

相馬 胤和君

「材料製造における革新的加工技術の進歩につい
て」

新日本製鐵(株)中央研究本部研究企画部長

中島 浩衛君

③ 北陸支部

昭和62年12月11日 ホテルサンルート長岡

「最近のステンレス鋼の進歩」

日本ステンレス(株)直江津製造所副所長

斎藤 喜一君

④ 東海支部

昭和62年9月8日 愛知県産業貿易館本館4階第4
会議室

「超電導材料の現状」

東海大学教授 太刀川恭治君

⑤ 関西支部

昭和62年3月18日 (株)神戸製鋼所健康保健会館

「鉄からシリコンへ」

ニッテツ電子(株)会長 岡田 秀弥君

「レーザーと未来社会」

大阪大学工学部教授・レーザー核融合研究センター長 山中千代衛君

昭和62年9月16日 (株)神戸製鋼所健康保険会館

「加工硬化したオーステナイトの変態挙動」

京都大学名誉教授 田村 今男君

「これからの新材料開発」

名古屋大学工学部教授 井村 徹君

⑥ 中国四国支部

昭和62年3月23日 広島大学理学部2号館646号室

「シンクロトン放射の金属学への応用」

広島大学理学部教授 太田 俊明君

「金属間化合物の材料機能設計」

東北大学金属材料研究所教授 和泉 修君

昭和62年7月17日 広島大学理学部2号館646号室

「新しい金属材料における準安定平衡の利用」

京都大学工学部教授 新宮 秀夫君

昭和62年10月23日 日本鋼管(株)福山製鉄所本館PR
室

「鉄鋼材料の薄板連続铸造法」

早稲田大学理工学部教授 草川 隆次君

「これからの自動車用材料 ～現状の問題点と将来動向～」

マツダ技研部長研究員 松野 亮君

⑦ 九州支部

昭和62年6月19日 九州大学工学部

「材料科学工学と金属工学」

名古屋大学教授 堂山 昌男君

昭和62年11月20日 九州工業大学工学部金属系教室

「両性酸化物を含む溶融ケイ酸の構造と物性」

九州工業大学教授 杉之原幸夫君

1.3 石原・浅田研究助成金の交付

両記念資金の果実の内280万円をもって、次の7件の研究に対し石原・浅田研究助成金を交付した。

- ① 1600℃におけるスラグ中クロム酸化物の溶解度および活量測定 森田 一樹君(東大)
- ② 球カプセルを使用した高温ガス(200~1000℃)の潜熱蓄熱によるエネルギー変換 秋山 友宏君(東北大)
- ③ 超微細晶粒を持つ高強度オーステナイト系ステンレス鋼 高木 節雄君(九大)
- ④ 高温質量分析法の状態図作成への応用 布上 真也君(早大)
- ⑤ 高圧力下のFe-W系の反応拡散と状態図

南塾 宜俊君(阪大)

⑥ ステンレス鋼とSiCおよびSi₃N₄の両立性に関する反応学的検討 黒川 一哉君(北大)

⑦ Ti-Al金属間化合物の組織制御による機械的性質の改善 福富 洋志君(横国大)

1.4 日向方斉学術振興交付金

第8, 9回分として下記通り決定した。

(第8回)

- ① 池 浩君 理化学研究所研究員
第2回塑性加工国際会議
1987年8月24日~28日
シュツットガルト(西ドイツ)
- ② 石川 孝司君 名古屋大学工学部助手
第4回鉄鋼圧延国際会議
1987年6月1日~3日
ドーヴィル(フランス)
- ③ 榎本 正人君 金属材料技術研究所強力材料研究
部主任研究員
固体の相変態国際会議
1987年7月6日~10日
ケンブリッジ(イギリス)
- ④ 鈴木 俊夫君 長岡技術科学大学工学部助教授
凝固プロセス1987
1987年9月21日~24日
シェフィールド(イギリス)
- ⑤ 平沢 政広君 名古屋大学工学部助手
二次精錬国際会議
1987年9月20日~25日
アーヘン(西ドイツ)
(第9回)
- ① 小野寺秀博君 科学技術庁金属材料技術研究所主
任研究官
第6回Ti国際会議
1988年6月6日~9日
カンヌ(フランス)
- ② 羽木 秀樹君 九州大学工学部鉄鋼冶金学科助手
第4回“水素と材料”に関する国際会議
1988年5月2日~6日
北京(中国)
- ③ 藤澤 敏治君 名古屋大学工学部金属学科助手
溶融スラグ及びフラックスに関する第3回国際会
議
1988年6月27日~29日
グラスゴー(イギリス)
- ④ 松尾 孝君 東京工業大学工学部助教授
高窒素鋼に関する国際会議“HNS 8”
1988年5月18日~20日
リール(フランス)

1.5 浅田記念文庫の寄贈

29大学に対し、記念文庫の寄贈を行なった。

1.6 研究振興資金

少壮研究者の研究奨励ならびに育成の為、本年度は

入一二氏より1万円の寄付があった。

2. ISO幹事国業務

2.1 ISO/TC17幹事国業務

昭和62年度TC17幹事国業務における最重点は、6月にマンチェスターで開催したTC17/EC会議の運営及びEC会議の決議事項のフォローアップであった。

昨年後半よりEC会議の成功へ向けて、国内関係者の協力を得て、海外主要国との連携を強化し、周到な準備を行った。

以下、日常業務も含めて、主な活動について報告する。

2.1.1 ISO規格案件の処理

昭和62年度中に成立したISO規格は6件で、処理したDISは12件であった。

規格成立後5年経過したものに対し、改正の要否を問う5年見直しは、12件について行われ、改正の必要ありと決定されたものは1件であった。又Stage1に3年停滞の作業項目の継続の可否に関する問い合わせは2件について行われ、2件とも継続と決定された。

2.1.2 第6回TC17/EC会議の開催

昭和62年6月4、5日、マンチェスターにおいてTC17/EC会議を開催した。

ISO規格作成の生産性の向上をメインテーマとし、鉄鋼の国際番号システム、幹事国不在のSC17に対する今後の対応、ISO/TC17とECISS（ヨーロッパ鉄鋼標準化委員会）との関係等について審議し、20の会議決議を採択した。主な審議結果は下記の通り。

(a) ISO規格作成の生産性向上

各作業段階毎の目標期間の設定

新規案件登録時の慎重な検討及び通信による作業推進の強化

長期停滞項目の整理

(b) 鉄鋼の国際番号登録システム

ISO/TAG2 (Metals) (Technical Board への諮問機関) が金属全体の国際番号登録システムに関するISO技術報告を発行する迄、本案件の作業を一時中断する。

(c) SC17に対する今後の対応

現存作業項目3件の内2件をTC17直属のワーキンググループ新設で対処し、残る1件は削除する。

(d) ISO/TC17とECISSの関係

両者の作業が重複するという問題が提起され、討議の結果、連携を深めるために、効率的な標準化活動を図っていくことが確認された。

2.1.3 ISO運営委員会（山本委員長・新日本製鉄）の開催

ISO運営委員会は9月、12月及び63年2月の計3回開催され、ISO事務局事業計画、事務局予算及び臨時協会事業検討委員会の答申に対する対処方針を審議し、TC17幹事国業務については現時点では維持するのが妥当との結論に達した。なお、今後3年ないし

6年毎に本件について検討、確認することにした。

2.1.4 TC17諮問部会（青木部会長・新日本製鉄）

TC17諮問部会は4月、7月及び63年1月の計3回、またワーキンググループは5月に1回開催され、EC会議資料作成、EC会議の決議事項のフォローアップ等を中心に主要技術問題について貴重な答申がなされた。

2.2 ISO/TC17/SC1幹事国業務

昭和62年度ISO/TC17/SC1幹事国業務における最重点課題は、第11回会議の決議事項のフォローアップとともにfinal DPの作成、WG活動への援助を効率的におこなって行き、第12回シドニー会議に結びつけて行くことであった。

2.2.1 Final DPの作成

4件のfinal DP, DP 4935 (S-燃焼赤外線吸収法), DP 9647 (V-原子吸光法), DP 9556 (C-燃焼赤外線吸収法), 及びDP 9658 (Al-原子吸光法)を作成し、DIS登録した。これらは現在合同投票中である。なお4件のDIS, DIS 4829-2 (微量Si-吸光光度法), DIS 4938 (Ni-重量/滴定法), DIS 4942 (V-吸光光度法), 及びDIS 9441 (Nb-吸光光度法)はいずれも、合同投票の結果、多数の賛成を得て、修正テキストを作成し中央事務局へ返送した。また、1件のTR, DTR 9769(鉄鋼の分析方法概要)を編集しDTR登録した。

2.2.2 WG活動支援

8WGのコンピーナーを訪問し、支援活動を行った。現在全ての9WGが活動している。WG活動成果報告書は3月上旬までに配布を予定している。

2.2.3 新規作業項目

第11回会議で提案された5件の新規提案、Ca-原子吸光法、電熱による無炭原子吸光法、Cr-原子吸光法、燃焼赤外線吸収法による非結合炭素の定量法及び合金鋼中の全Alの原子吸光法(微量のAlを含む)を新規作業項目として登録した。

2.2.4 第12回国際会議の準備

昭和63年4月11日～15日、オーストラリア・シドニー市での開催に必要な事前準備、ホスト国との打ち合わせを行った。10～11ヶ国、約30名の出席を予定している。

2.2.5 SC1諮問部会の開催

4月、6月、8月、10月、12月の計5回開催し、規格案件最終版の作成、第12回シドニー会議の準備、事務局提案等々につき諮問し、多大の協力を願った。

3. 各種委員会等

3.1 日本圧力容器研究会議

本研究会議は、材料部会、施工部会、設計部会の3部会より成り、本会は材料部会を担当し、3専門委員会が活動している。

3.1.1 圧力容器用鋼材専門委員会

共同研究テーマとして「TMCP鋼のPWH T特性」を取り上げ、試験方案を取りまとめ実験に着手した。

3.1.2 水素脆化専門委員会

2 ¼ Cr-1 Mo 鋼の KIH 測定に関する共同実験が一応終了した。また、水素侵食に関する文献調査を実施した。

3.1.3 非破壊試験専門委員会

P I S C III 計画に参加すべく検討を進め、N D W (Nozzles and Dissimilar Metal Welds) 及び、A S T (Round Robin Tests of Austenitic Steels) の2グループに参加することとした。

3.2 構造用鋼材の機械的性質に関する調査研究委員会

現状の鋼材の材質の実態と将来の構造物の設計方法を考慮し、今後の構造用鋼材の具備すべき条件の探究、および RILEM TC83 の「金属の終局状態挙動の特性化の研究」に日本側の意見を反映させることを目的とした委員会（委員長・加藤勉君）であり、今年6月に第1回の委員会を開催し、既存データ収集、追加試験の実態、および高張力鋼の建築構造物への適用研究の中間報告があった。又、9月4日～12日にフランス(パリ)で開催された RILEM TC83 の委員会に、加藤委員長他2名が出席した。

VI. 地方支部

北海道、東北、北陸、東海、関西、中国四国、九州の各支部において、下記の通り講演会、討論会、研究会を開催した。

	講演会	討論会	研究会
北海道	2	—	4
東北	3	—	2
北陸	4	—	3
東海	3	1	11
関西	5	16	12
中国四国	5	—	6
九州	1	1	10

VII. 庶務事項

- 1) 昭和62年5月6日、昭和61年度事業報告、収支決算報告、財産目録、昭和62年度事業計画、収支予算書および通常総会決議録を文部大臣に提出した。
- 2) 昭和62年5月13日、理事の変更登記を東京法務局へ提出、5月20日登記完了した。
- 3) 昭和62年8月24日、理事の変更登記を東京法務局へ提出、8月27日登記完了した。